

子供用ライフジャケットの安全な使用に 関する調査

平成 31 年 3 月

東京都生活文化局

目次

1 調査目的	1
(1) ライフジャケットの重要性	1
(2) ライフジャケットに対する法規制、自主基準	1
(3) ライフジャケット着用推進への課題	2
(4) 本調査の目的	3
2 消費者アンケート調査	5
(1) 調査設計	5
(2) 回答者の属性	5
(3) 集計上の注意事項	5
(4) 調査結果	6
3 着用状況実地調査	31
(1) 調査方法	31
(2) 調査結果	31
4 試験・表示調査	33
(1) 実施期間	33
(2) 検体	33
(3) 試験方法	33
(4) 試験結果	36
5 考察	40
(1) 着用率	40
(2) サイズ違い、締付け不足、股下ベルト不使用	41
(3) リサーキュレーション(循環流)、ホワイトウォーターに注意	42
(4) 表示された浮力を満たさない商品	42
6 消費者へのアドバイス	44
7 調査結果の活用	44
付録 1 ライフジャケット着用状況実地調査(小学生以外)結果	46
付録 2 表示調査結果詳細	47

1 調査目的

(1) ライフジャケットの重要性

自然の水域における子供の溺死が多く発生している。わが国では2013年からの5年間に、5歳から14歳までの不慮の事故による死亡中、溺死は交通事故に次ぐ死因の第2位であった。このうち、自然の水域での溺死は54.9%を占めており、全国で5年間に128人が死亡している（図1-1）¹。

水難事故対策にはライフジャケットが有効とされている。ライフジャケットは、溺水を防ぐために身体につけるチョッキ状などの浮具である。本調査では、船舶法定備品か、自主基準対象品か、またはこれらの対象外品かを問わず、溺水を防ぐために身体につけるチョッキ状などの浮具を

「ライフジャケット」と呼ぶ。釣り人が海中に転落した場合、ライフジャケット着用者の死者・行方不明者率が34.9%であるのに対し、非着用者の死者・行方不明者率は46.8%であった²。2018年2月（12歳未満の小児に対しては、2003年6月）からは、小型船舶の船室外の甲板上では原則としてライフジャケットの着用が義務化され³、水難による死者の減少が期待されている。

(2) ライフジャケットに対する法規制、自主基準

水遊びなどの際にはライフジャケットの着用義務はない。具体的には、川や海での水遊びや、陸上からの釣り、シュノーケリングを行う場合等は、ライフジャケット着用は法規制の対象とはなっていない。加えて、上述のように小型船舶では原則としてライフジャケットの着用が義務づけられたが、小型船舶に該当しない船舶（長さが3メートル未満であり、推進機関の出力が1.5キロワット未満である船舶であって、国土交通大臣が指定するもの⁴（ミニボート）や、ろかいのみをもって運転する舟⁵等。具体的には、手漕ぎボート、カヌーなど）乗船時には、ライフジャケットの着用義務はない⁶。ただし、東京都では、2018年7月より東京都水上安全条例が施行され、河川の水面、京浜港東京区の港域内海面等では、上記の船舶に乗船する際にも、ライフジャケットを着用するよう努めなければならない。

国の各省庁は、法的な着用義務がない場面についても、ライフジャケット着用を勧めている。「子供の事故防止に関する関係府省庁連絡会議」（事務局：消費者庁）は、釣りをする時やボートに乗る時、川で遊ぶ時などは、ライフジャケットを正しく着用しましょうと発表している⁷。国土交通省は、船外機付きミニボートでは乗船者は必ずライフジャケットを着用するよう呼びかけており⁸、海上保安庁は、釣り中の防波堤や岩場か

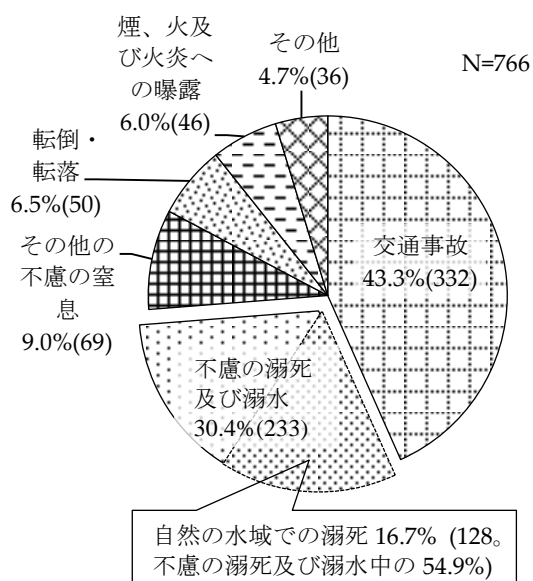


図1-1 5歳から14歳までの、不慮の事故による死亡の内訳（2013年から5年間）

らの転落事故防止について、ライフジャケットの着用が重要としている⁹。また警察庁も、水難の防止対策として、釣りやボート等で水辺に行くときは必ずライフジャケットを着用することとしている¹⁰。

ライフジャケットには、船舶の法定備品として要求される基準を満足している、国土交通省の型式承認を受けた製品（「桜マーク」(図 1-2) が表示されている)がある。前述のとおり、小型船舶の船室外の甲板上では、国の基準に適合したライフジャケット（桜マークで可）の着用が、原則、必要となる。

一方で、着用義務がない場面で使用するライフジャケットに対しても、これらを対象とした自主基準及び第三者認定制度が存在する。具体的には、防波堤や磯での釣り、カヌー、ラフティングといったレジャー用に使用されるライフジャケットを対象に、各マリンレジャー業界、メーカー、ユーザー、学識経験者及び関係官庁等によって策定された自主基準¹¹に対して第三者機関が各製品の基準適合性を鑑定¹²する制度であり、基準に適合していることが確認された製品に対しては「性能鑑定マーク（CS マーク）(図 1-3)」が表示される。

また、この他にも、特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会（RAC）による「RAC 川育ライフジャケット認定規則」¹³に基づき製造者が自己認証したものを RAC が認定した製品（RAC 川育ライフジャケット認定マーク（図 1-4）が表示されている）が存在している。



図 1-2 桜マーク(国土交通省による船舶用品型式承認のマーク)



性能鑑定

図 1-3 性能鑑定マーク
(日本小型船舶検査機構)



図 1-4 RAC 川育ライフジャケット認定マーク

(3) ライフジャケット着用推進への課題

水難事故の防止のためにはライフジャケットの着用推進が望ましいが、その際に三つの課題があると考えられる。

第一に、ライフジャケットが使用されている場面や、対象者の年齢別の着用状況が不明である。場面や対象者の年齢別のライフジャケット着用率は、釣り中の事故者の活動場所別ライフジャケット着用率²や、川遊びでの1歳から6歳までの着用率が調査されている¹⁴。しかし、それ以外の場面や年齢でのライフジャケット着用率調査を見つけることはできなかった。場面や年齢別のライフジャケット着用率を詳細に明らかにすることができれば、重点的に改善すべき対象を明確にすることができる。

第二に、ライフジャケットの不適切な着用法や危険な場所での使用は、効果を低減するおそれがある。ライフジャケットのベルトをしっかりと締め付けていない場合等には、ライフジャケットが脱落したり、ライフジャケットの肩部がずり上がって使用者の顔面が沈み込む可能性がある⁹。また、堰堤の下に発生するリサーキュレーション（循環流）¹⁵では脱出が困難になるほか、ホワイトウォーター¹⁶では浮力が低下してし

まう。ライフジャケットの正しい着用法や、ライフジャケットを着用していても避けるべき場所を周知し、効果が最大限に発揮されるようにする必要がある。

第三に、表示された浮力を満たさないライフジャケットが存在する可能性がある。「レジャー用ライフジャケットの性能確認試験基準」についての調査研究報告書では、法規制対象外のライフジャケットの中には、基本的な浮力や強度が劣るものも流通しているとの声もあるとしている¹¹。さらに、あるカヌーショップ経営者は「安価な製品の中には『浮力 4 キログラム』と表示されていても、実際に 4 キログラムのおもりを付けて水に入ると沈んでいくものもある」と述べている¹⁷。ライフジャケットの選択にあたっては、自分の体重の 1 割の浮力を目安¹⁸としたり、子供用の浮力は 4kg 以上（ホワイトウォーターではさらに高い浮力）¹⁹とするなどの考え方があある。表示された浮力が満たされていない場合、消費者のライフジャケット選択に際し誤った情報を与えるばかりか、消費者を危険な状況に至らせる可能性がある。

(4) 本調査の目的

本調査では、上記の三つの課題を調査し、消費者や事業者等に子供用ライフジャケットの安全な使用について情報提供を行うことを目的とする。使用場面や、対象者の着用状況については、自然の水域での溺死が多い小学生の状況を消費者アンケート調査と実地調査により、不適切な着用法や危険な場所での使用については消費者アンケート調査と再現実験により、浮力については試験・表示調査により明らかにする。

ライフジャケットを構造別に分類すると、固型式、膨脹式、気体密封式、ハイブリッド式の 4 種に分類できる²⁰が、膨脹式では子供を対象とした商品が少なく、気体密封式、ハイブリッド式では子供を対象とした商品を確認できなかったことから、本調査では固型式を調査の対象とした。

¹ 2013 年から 2017 年までの、厚生労働省. 人口動態統計 上巻 死亡 第 5.31 表 不慮の事故の種類別にみた年齢別死亡数. に基づき算出(Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 14 日).

² 海上保安庁. 平成 29 年 海難の現況と対策. に基づき算出(Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 14 日).

³ 国土交通省. ライフジャケットの着用義務拡大.(Web サイトアクセスは 2019 年 1 月 22 日).

⁴ 船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則第 2 条第 2 項第 1 号

⁵ 船舶職員及び小型船舶操縦者法第 2 条第 1 項第 1 号

⁶ ただし、海上運送法が適用される事業者では、ろかいのみをもって運転する舟でも救命胴衣着用を徹底するよう安全管理規程に明記することとなっている。国土交通省, 日本小型船舶検査機構. 川下り船の安全対策ガイドライン. 2013.(Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 18 日).

⁷ 子供の事故防止に関する関係府省庁連絡会議. 海、川、湖沼池、プール等での「水の事故」に気を付けましょうー平成 30 年度「子どもの事故防止週間」を 5 月 21 日から実施しますー. 2018.(Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 28 日).

⁸ 国土交通省海事局. ミニボートに乗る前に知っておきたい安全知識と準備. 国土交通省海事局船舶産業課舟艇室.(Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 14 日).

⁹ 海上保安庁. 平成 29 年 海難の現況と対策.(Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 14 日).

¹⁰ 警察庁生活安全局地域課. 平成 29 年における水難の概況. 2018.(Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 18 日).

¹¹ レジャーで使用する個人用の浮力補助具に関する業界の性能基準策定支援事業に関する調査研究報告書. 日本小型船舶検査機構. 2015.(Web サイトアクセスは 2018 年 4 月 17 日).

- ¹² 鑑定は、日本小型船舶検査機構が国土交通省より認可を受け行っている性能鑑定業務によって実施されている。
- ¹³ 特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会. RAC 川育ライフジャケット認定規則. (Web サイトアクセスは 2019 年 1 月 30 日)
- ¹⁴ 消費者庁. 平成 29 年度子どもの事故防止調査 調査結果報告書. 2018. (Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 18 日).
- ¹⁵ 川を横断するように設置されている堰堤の直下流で、流れが上流側に反転すること。リサーキュレーションに捕捉されると脱出が困難になる。公益財団法人河川財団. 水辺の安全ハンドブック 2018 年 WEB 版. (Web サイトアクセスは 2018 年 10 月 29 日).
- ¹⁶ 急流や激流などで、逆巻く波や落ち込む流れにより白く泡立った水のこと。空気を多く含んだ泡の多い水の中では浮力が低下する。国土交通省, 日本小型船舶検査機構. 川下り船の安全対策ガイドライン. 2013. (Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 18 日). 公益財団法人河川財団. 水辺の安全ハンドブック 2018 年 WEB 版. (Web サイトアクセスは 2018 年 10 月 29 日).
- ¹⁷ NIKKEI STYLE. 浮き輪より安全快適、海川遊びにライフジャケットの薦め. (Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 19 日).
- ¹⁸ WEAR IT! ライフジャケットを着よう! プロジェクト. ライフジャケット Q&A3-1 どう選ぶの?. 公益財団法人マリンスポーツ財団. (Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 19 日).
- ¹⁹ 公益財団法人河川財団. 水辺の安全ハンドブック 2018 年 WEB 版. (Web サイトアクセスは 2018 年 10 月 29 日).
- ²⁰ (1) 固型式(浮力体に発泡プラスチック等の固型物を使用)
(2) 膨脹式[浮力体として炭酸ガス等を使用。膨脹方法は自動式(水に浸かると自動的に膨脹)又は手動式(膨脹作動用の紐を引くことで膨脹)であり、膨らみが足りない場合には、呼気で補充することが可能。]
(3) 気体密封式(気体を密封した袋を内蔵し、袋を保護するための薄い固型の浮力材を併用)
(4) ハイブリッド式(固型の浮力材だけでも最低限の浮力を有し、膨脹させると十分な浮力を得ることができる)
- 国土交通省. ライフジャケットの種類と特徴. (Web サイトアクセスは 2018 年 4 月 17 日).
- なお、事故情報データベースシステムでは、ライフジャケットの不具合に関する情報が 2009 年 9 月から 5 件登録されているが、いずれも膨脹式に関する情報であり、情報が寄せられた商品が法規制または自主基準の対象であるかは不明であった。
- 消費者庁、独立行政法人国民生活センター. 事故情報データベースシステム. (Web サイトアクセスは 2019 年 1 月 30 日). 検索条件: フリーワード=ライフジャケットを含むで検索し、6 件が該当。うちライフジャケットの不具合に関する情報が 4 件。いずれも膨脹式に関するもの。事故情報 ID:0000175317「(前略)大雨の日に作動したが、膨らみが少な過ぎて、水難の時に機能しないのではないか?」事故情報 ID:0000004218「磯釣り中、海に落ちたのでライフジャケットの紐を引っ張ったが、ジャケットが膨らまず、自力で磯まで泳ぎ手足に擦り傷を負った。」事故情報 ID:0000005329「10 日前磯釣り中に波にさらわれて海にはまった際、半年位前に購入したライフジャケットが膨らまず、危険な思いをした。」事故情報 ID:0000007260「オークションで自動膨脹装置付救命胴衣を落札。水没した時に装置が作動しなかった。メーカーは故障ではないと言うが納得できない」
- 検索条件: フリーワード = 救命胴衣 を含むで検索し、3 件が該当。うち 2 件は「ライフジャケット」でも該当したもの。重複せず、救命胴衣の不具合に関する情報は 1 件。事故情報 ID:0000139858「1 年半ほど前に買った救命胴衣を車に入れていたら膨脹した。買った店で 2007 年製であることがわかった。交換してほしい。」

2 消費者アンケート調査

(1) 調査設計

ア 対象

インターネット調査会社にモニター登録している、東京都、神奈川県、埼玉県及び千葉県内に在住する20歳以上の男女で、過去1年間にアンケート中に示す水辺での活動を経験した小学生と同居し、かつその活動に同行した保護者。質問の対象となる小学生の性別は、男児、女児とも1,250人以上とした。

イ 対象者数

2,576人

ウ 調査方法

インターネットによるアンケート方式

エ 調査期間

2018年10月16日から10月20日まで

(2) 回答者の属性

回答者の性別・年代を表2-1に、回答者の居住地を表2-2に示す。

表2-1 回答者の性別・年代

	回答者数(%)				
	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
全体	2576	48(1.9)	888(34.5)	1530(59.4)	110(4.3)
男	1196	12(1.0)	309(25.8)	794(66.4)	81(6.8)
女	1380	36(2.6)	579(42.0)	736(53.3)	29(2.1)

表2-2 回答者の居住地

	回答者数(%)			
計	東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県
2576	1077(41.8)	646(25.1)	468(18.2)	385(14.9)

(3) 集計上の注意事項

- ・割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、割合を合計しても、100%にならない場合がある。
- ・設問によっては、複数回答の結果、割合の合計が100%を超える場合がある。
- ・グラフに表記される「N=*」(*は数字)は、対象の母数を表す。
- ・グラフや表の中での選択肢の文章が長い場合は、簡略化して表現しているため、アンケート調査票の文章とは一致していない場合がある。

(4) 調査結果

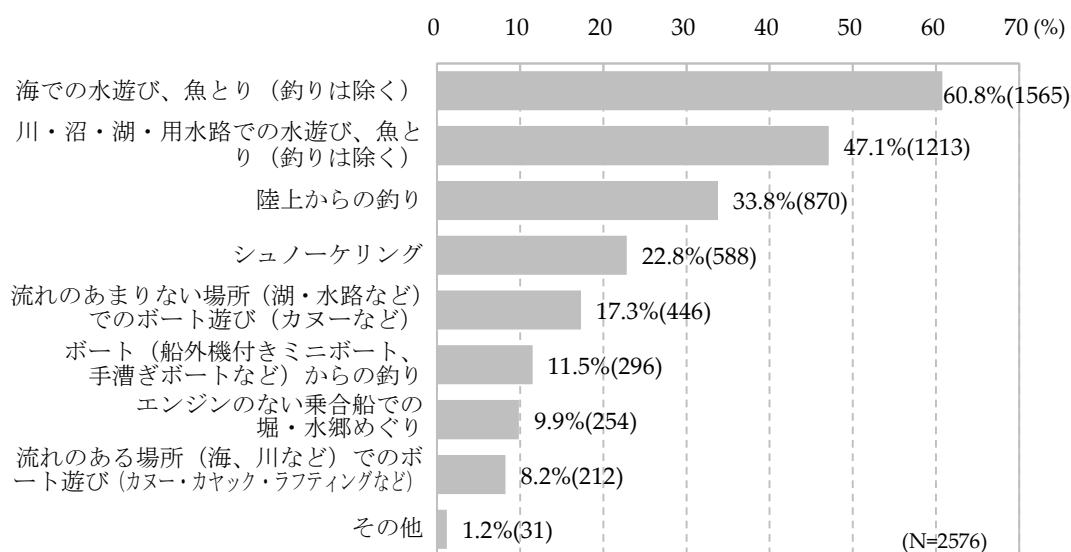
ア 小学生の水辺の活動の種類

問 過去1年間に、お子さんと一緒に行った水辺の活動は何ですか。この中からいくつでもお答えください。※ダイビング、水泳・遊泳、公園での貸ボート遊び、遊覧船、乗合船での釣り、和船での観光川下りは除きます。

同居する小学生に同行した水辺の活動の種類（複数回答）について図2-1に、水辺の活動の種類別に見た小学生の性別と年齢を表2-3に示す。さらに、同行した水辺の活動の種類数を表2-4に示す。なお、全体のN数は回答者数（2,576）とした。

経験した活動の種類は「海での水遊び、魚とり（釣りは除く）」が60.8%で最も多く、次いで、「川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）」が47.1%であった。

水辺の活動の種類別に見た小学生の性別、年齢では、「陸上からの釣り」と「ボート（船外機付きミニボート、手漕ぎボートなど）からの釣り」で、男子の占める割合が女子に比べ20ポイント程度高かったほかは特徴的な傾向は見られず、活動経験は年齢に関わらずほぼ等しく分布していた。



「その他」計31回答の内訳（SUP 3、キャニオニング 2、サーフィン 2、ドルフィンスイム 1、ウォータースキー 1、ホエールウォッチング 1、水辺や河原の散歩 1、「その他」の内訳無回答 20）

SUP：Stand Up Paddleboard（スタンドアップパドルボード）の略。ボード上に立ち、パドルで漕いで水上を進む乗り物。（海上保安庁ホームページより）

キャニオニング：渓谷（キャニオン canyon）を流れる川をボートやカヌーを使わずに下るスポーツ。（小学館 日本大百科全書より）

図2-1 同居する小学生に同行した水辺の活動の種類

表 2-3 水辺の活動の種類別に見た小学生の性別と年齢別

回答数 (%)

	性別			年齢							
	計	男子	女子	計	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳
全体	2576	1288(50.0)	1288(50.0)	2576	446(17.3)	349(13.5)	360(14.0)	307(11.9)	399(15.5)	331(12.8)	384(14.9)
活動の種類別											
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1565	780(49.8)	785(50.2)	1565	272(17.4)	224(14.3)	234(15.0)	180(11.5)	248(15.8)	193(12.3)	214(13.7)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1213	648(53.4)	565(46.6)	1213	235(19.4)	171(14.1)	190(15.7)	137(11.3)	181(14.9)	150(12.4)	149(12.3)
陸上からの釣り	870	518(59.5)	352(40.5)	870	129(14.8)	116(13.3)	125(14.4)	97(11.1)	129(14.8)	109(12.5)	165(19.0)
シュノーケリング	588	301(51.2)	287(48.8)	588	60(10.2)	78(13.3)	83(14.1)	74(12.6)	98(16.7)	90(15.3)	105(17.9)
流れのあまりない場所でのボート遊び	446	216(48.4)	230(51.6)	446	81(18.2)	63(14.1)	60(13.5)	46(10.3)	73(16.4)	50(11.2)	73(16.4)
ボートからの釣り	296	174(58.8)	122(41.2)	296	65(22.0)	46(15.5)	38(12.8)	29(9.8)	37(12.5)	28(9.5)	53(17.9)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	254	116(45.7)	138(54.3)	254	49(19.3)	31(12.2)	33(13.0)	31(12.2)	41(16.1)	36(14.2)	33(13.0)
流れのある場所でのボート遊び	212	115(54.2)	97(45.8)	212	22(10.4)	22(10.4)	32(15.1)	29(13.7)	39(18.4)	33(15.6)	35(16.5)
その他	31	13(41.9)	18(58.1)	31	5(16.1)	3(9.7)	5(16.1)	3(9.7)	10(32.3)	3(9.7)	2(6.5)

表 2-4 同居する小学生に同行した水辺の活動の種類数

回答者数(%)

計	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類
2576	1032(40.1)	791(30.7)	420(16.3)	200(7.8)	63(2.4)	29(1.1)	17(0.7)	23(0.9)	1(0.0)

イ 主催者の区分

問 その活動の主催者の区分は、次のうちどれに当てはまりますか。

同居する小学生に同行した水辺の活動の主催者の区分について、図 2-2 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た主催者の区分を、表 2-5 に示す。なお、全体の N 数は経験した活動の回答数 (5,475) とした。

主催者の区分は「家族のみでの活動」が 80.2%で最も多く、次いで「主催者が明らかなもの（観光ツアー、公開イベント、競技大会など）」が 13.9%、最も少なかったのが「主催者が明らかでないもの（友人との活動、サークルでの親睦活動など）」で、5.9%であった。

水辺の活動の種類別では、「流れのある場所（海、川など）でのボート遊び（カヌー・カヤック・ラフティングなど）」と「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」において、「主催者が明らかなもの（観光ツアー、公開イベント、競技大会など）」の割合が多く（それぞれ 61.8%、45.3%）、全体と異なる傾向が見られた。

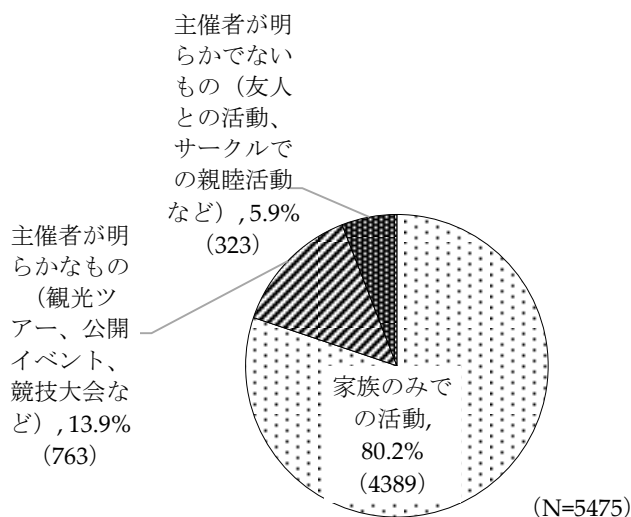


図 2-2 主催者の区分

表 2-5 水辺の活動の種類別に見た主催者の区分

活動の種類別	計	主催者の区分		
		家族のみでの活動	主催者が明らかなもの (観光ツアー、公開イベント、競技大会など)	主催者が明らかでないもの (友人との活動、サークルでの親睦活動など)
全体	5475	4389(80.2)	763(13.9)	323(5.9)
活動の種類別				
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1565	1413(90.3)	72(4.6)	80(5.1)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1213	1042(85.9)	67(5.5)	104(8.6)
陸上からの釣り	870	771(88.6)	51(5.9)	48(5.5)
シュノーケリング	588	434(73.8)	123(20.9)	31(5.3)
流れのあまりない場所でのボート遊び	446	289(64.8)	142(31.8)	15(3.4)
ボートからの釣り	296	214(72.3)	58(19.6)	24(8.1)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	254	127(50.0)	115(45.3)	12(4.7)
流れのある場所でのボート遊び	212	74(34.9)	131(61.8)	7(3.3)
その他	31	25(80.6)	4(12.9)	2(6.5)

ウ 活動前のライフジャケット所有状況

問 その活動を行う前に、お子さん用のライフジャケットを所有していましたか。

活動前のライフジャケット所有状況について、図 2-3 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た活動前のライフジャケット所有状況を、表 2-6 に示す。なお、全体の N 数は経験した活動の回答数(5,475)とした。

水辺の活動を行う前に、ライフジャケットを「所有していた」割合は全体で 35.3%であった。水辺の活動の種類別では、「シュノーケリング」や「流れのある場所(海、川など)でのボート遊び(カヌー・カヤック・ラフティングなど)」、「ボート(船外機付きミニボート、手漕ぎボートなど)からの釣り」、「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」を経験している回答者は、50%以上がライフジャケットを「所有していた」と回答しており、全体に比べ高い割合であった。

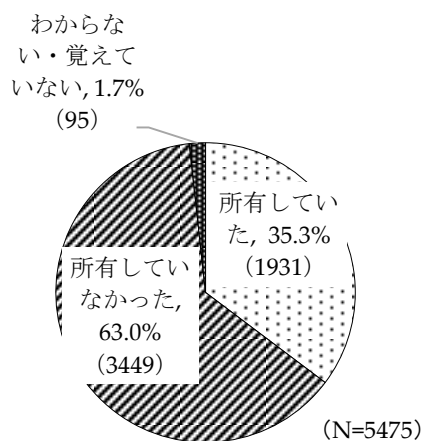


図 2-3 活動前のライフジャケット所有状況

表 2-6 水辺の活動の種類別に見た活動前のライフジャケット所有状況

	計	ライフジャケット所有状況			回答数(%)
		所有していた	所有していなかった	わからない・覚えていない	
全体	5475	1931(35.3)	3449(63.0)	95(1.7)	
活動の種類別					
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1565	381(24.3)	1162(74.2)	22(1.4)	
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1213	256(21.1)	934(77.0)	23(1.9)	
陸上からの釣り	870	305(35.1)	551(63.3)	14(1.6)	
シュノーケリング	588	350(59.5)	229(38.9)	9(1.5)	
流れのあまりない場所でのボート遊び	446	218(48.9)	224(50.2)	4(0.9)	
ボートからの釣り	296	156(52.7)	131(44.3)	9(3.0)	
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	254	133(52.4)	115(45.3)	6(2.4)	
流れのある場所でのボート遊び	212	121(57.1)	84(39.6)	7(3.3)	
その他	31	11(35.5)	19(61.3)	1(3.2)	

エ ライフジャケット着用の有無

問 その活動中、お子さんはライフジャケットを着用しましたか。

ライフジャケット着用の有無について、図 2-4 に示す。また、水辺の活動の種類別に見たライフジャケット着用の有無を図 2-5 に示す。観光ツアー等で着用した場合は「有償で借用したライフジャケットを着用した」を選択することとした。なお、全体の N 数は経験した活動の回答数 (5,475) とした。

全体でみるとライフジャケットを「着用しなかった」という回答が 55.6%と半数以上を占めていた。また、活動の

種類別に「着用しなかった」と回答した割合をみると、「川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり (釣りは除く)」が 80.0%、「海での水遊び、魚とり (釣りは除く)」が 75.8%、「陸上からの釣り」が 58.9%と高い割合を示した。

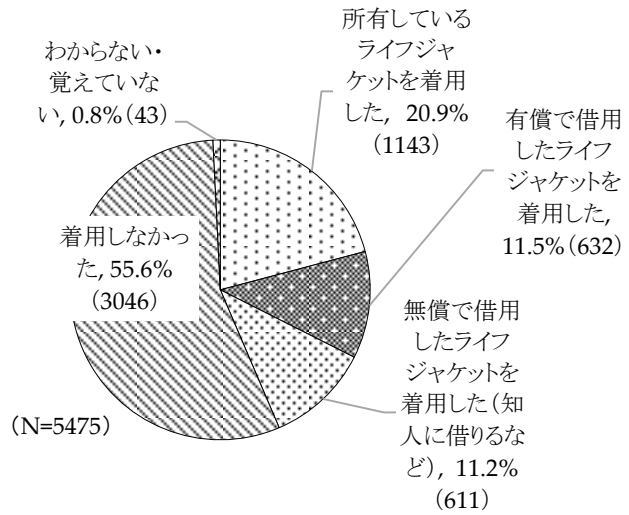


図 2-4 ライフジャケット着用の有無

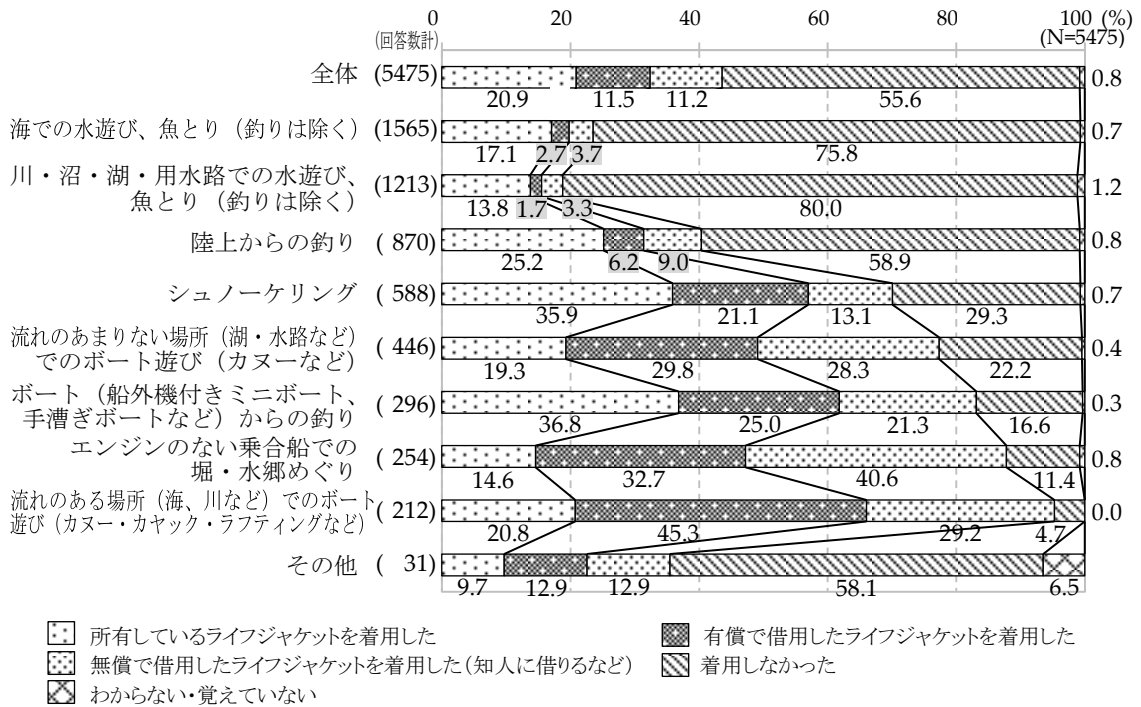


図 2-5 水辺の活動の種類別に見たライフジャケット着用の有無

オ 着用したライフジャケットの種類

問（「着用した」と答えた方）お子さんが着用したライフジャケットの種類をお答えください。

着用したライフジャケットの種類について、図 2-6 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た、着用したライフジャケットの種類を表 2-7 に示す。なお、全体の N 数はエのライフジャケット着用の有無について「所有しているライフジャケットを着用した」、「有償で借用したライフジャケットを着用した」及び「無償で借用したライフジャケットを着用した」との回答の合計（2,386）とした。

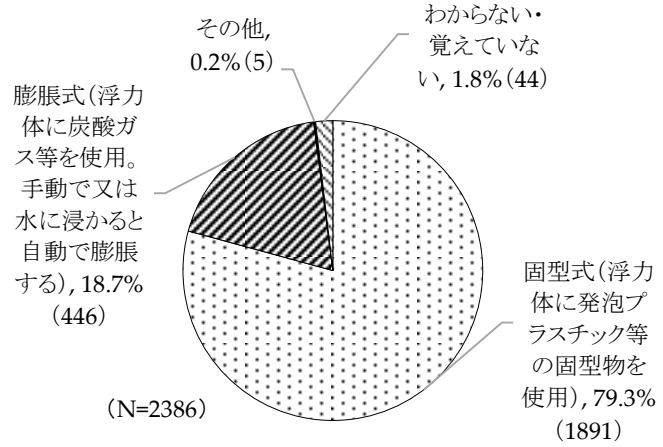


図 2-6 着用したライフジャケットの種類

着用したライフジャケットの種類は「固型式（浮力体に発泡プラスチック等の固型物を使用）」が 79.3%と最も多い割合を占めていた。水辺の活動の種類別では、「ボート（船外機付きミニボート、手漕ぎボートなど）からの釣り」及び「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」で膨脹式の割合が全体より 10 ポイント程度高かった。

表 2-7 水辺の活動の種類別に見た、着用したライフジャケットの種類

活動の種類別	着用したライフジャケットの種類					回答数(%)
	計	固型式(浮力体に発泡プラスチック等の固型物を使用)	膨脹式(浮力体に炭酸ガス等を使用。手動で又は水に浸かると自動で膨脹する)	その他	わからない・覚えていない	
全体	2386	1891(79.3)	446(18.7)	5(0.2)	44(1.8)	
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	368	293(79.6)	67(18.2)	1(0.3)	7(1.9)	
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	228	182(79.8)	41(18.0)	2(0.9)	3(1.3)	
陸上からの釣り	351	273(77.8)	72(20.5)	0(0.0)	6(1.7)	
シュノーケリング	412	360(87.4)	41(10.0)	2(0.5)	9(2.2)	
流れのあまりない場所でのボート遊び	345	273(79.1)	66(19.1)	0(0.0)	6(1.7)	
ボートからの釣り	246	171(69.5)	68(27.6)	0(0.0)	7(2.8)	
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	223	158(70.9)	61(27.4)	0(0.0)	4(1.8)	
流れのある場所でのボート遊び	202	170(84.2)	30(14.9)	0(0.0)	2(1.0)	
その他	11	11(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	

カ ライフジャケットが役に立った経験の有無

問（「着用した」と答えた方に）お子さんがライフジャケットを着用したことが、役に立った経験はありましたか。（例：水に落ちたが浮かんだ、川に流されたが浮かび岸にたどり着いたなど。）

ライフジャケットが役に立った経験の有無について、図 2-7 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た、ライフジャケットが役に立った経験の有無について表 2-8 に示す。なお、全体の N 数はエのライフジャケット着用の有無について「所有しているライフジャケットを着用した」、「有償で借用したライフジャケットを着用した」及び「無償で借用したライフジャケットを着用した」との回答の合計（2,386）とした。さらに、ライフジャケットが役に立った経験の内訳を表 2-9 に示す。

ライフジャケットが役に立った経験が「あった」は全体の 4.6%であった。水辺の活動の種類別では「シュノーケリング」、「流れのある場所（海、川など）でのボート遊び（カヌー・カヤック・ラフティングなど）」及び「川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）」で「あった」の割合が高かった。役に立った経験の内訳としては、水に落ちたが浮いたが 30 件、流されたとき対処できたが 8 件など、危険回避に役立った経験が確認された。

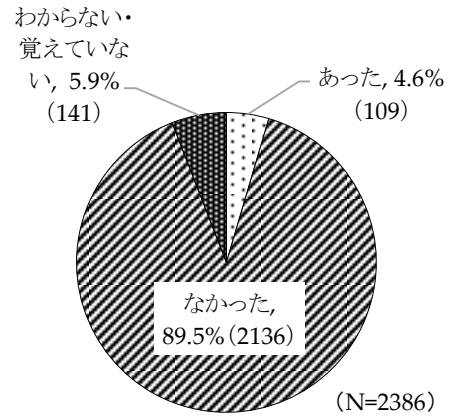


図 2-7 ライフジャケットが役に立った経験の有無

表 2-8 水辺の活動の種類別に見た、ライフジャケットが役に立った経験の有無

	回答数(%)			
	計	あった	なかった	わからない・覚えていない
全体	2386	109(4.6)	2136(89.5)	141(5.9)
活動の種類別				
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	368	11(3.0)	339(92.1)	18(4.9)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	228	16(7.0)	198(86.8)	14(6.1)
陸上からの釣り	351	2(0.6)	327(93.2)	22(6.3)
シュノーケリング	412	39(9.5)	346(84.0)	27(6.6)
流れのあまりない場所でのボート遊び	345	9(2.6)	323(93.6)	13(3.8)
ボートからの釣り	246	8(3.3)	218(88.6)	20(8.1)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	223	4(1.8)	209(93.7)	10(4.5)
流れのある場所でのボート遊び	202	18(8.9)	168(83.2)	16(7.9)
その他	11	2(18.2)	8(72.7)	1(9.1)

表 2-9 ライフジャケットが役に立った経験の内訳

役に立った経験	回答数	具体的な記載内容(抜粋)
水に落ちたが浮いた	30	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	2	移動中海に落ち、溺れそうになった
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
陸上からの釣り	2	落ちても浮かんだ
流れのあまりない場所でのボート遊び	5	何度も落ちたが浮いていた。ボートからも持ち手の部分を持って引き上げて貰えた
ボートからの釣り	3	海に落ちた
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	1	
流れのある場所でのボート遊び	14	海の深いところで落ちたが浮かんだ
その他	2	水の中に落ちた時に落ちて着いて行動できた
深いところでも溺れなかった	19	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	2	足のつかない海の深さを泳ぐ時は、かなり助かった
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	4	深いところまで流された
シュノーケリング	13	深みにはまった時
安心だった	11	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
シュノーケリング	4	シュノーケリングを怖がらず安心してできた
流れのあまりない場所でのボート遊び	2	安全性
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	1	
流れのある場所でのボート遊び	2	川に落ちても動揺せずに楽しめた
流されたとき対処できた	8	
活動の種類別		
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	4	川に少し流されたが、ライフジャケットのおかげで慌てることなく対応できた
シュノーケリング	2	波が強かったので、親のそばから離れ、足の届かない場所まで行ってしまったが、浮いているので、すぐに居場所がわかった
流れのある場所でのボート遊び	2	流されかけた時に上手く泳げた
泳ぐときに役立った	7	
活動の種類別		
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
シュノーケリング	6	泳ぎやすそうだった
波にのまれたが浮いた	6	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	3	波にのまれた時浮いてきた
シュノーケリング	3	波が来ても沈まず浮かべた
転倒したとき役立った	6	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	2	転んでも溺れなかった
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	3	川の中で足を滑らせ転んだ時に役立った
流れのあまりない場所でのボート遊び	1	
体力の消耗を防げた	5	
活動の種類別		
シュノーケリング	5	疲れた時に浮力があるので浮いて休めた
浮かんで遊べた	4	
活動の種類別		
シュノーケリング	4	ジャケットのおかげで海底が見やすかった
無回答	13	

キ ライフジャケットに関連した不具合の有無

問（「着用した」と答えた方に）ライフジャケットに関連した不具合はありましたか。（例：ライフジャケットが岩に挟まれた、脱げそうになった、浮力が足りなかった、壊れたなど。）

ライフジャケットに関連した不具合の有無について、図 2-8 に示す。また、水辺の活動の種類別に見たライフジャケットに関連した不具合の有無について、表 2-10 に示す。なお、全体の N 数はエのライフジャケット着用の有無について「所有しているライフジャケットを着用した」、「有償で借用したライフジャケットを着用した」及び「無償で借用したライフジャケットを着用した」との回答の合計（2,386）とした。さらに、ライフジャケットに関連した不具合の内訳を表 2-11 に示す。

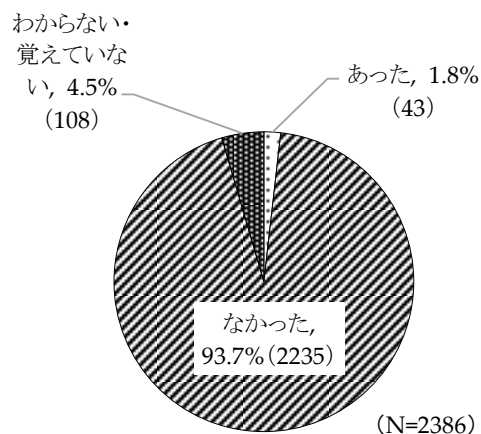


図 2-8 ライフジャケットの不具合の有無

全体でみると、ライフジャケットに関連した不具合が「なかった」が 93.7%であった。水辺の活動の種類別では大きな違いは見られなかった。不具合の内訳としては、サイズが合わないが 4 件、脱げそうになった、股がベルトで擦れたがそれぞれ 3 件あったほか、うつ伏せで浮かんでしまい危なかった、身体が浮かなかった、浮力のバランスが悪いなど、危険な不具合についての回答もあった。

表 2-10 水辺の活動の種類別に見たライフジャケットに関連した不具合の有無
回答数(%)

活動の種類別	ライフジャケットの不具合の有無			
	計	あった	なかった	わからない・覚えていない
全体	2386	43(1.8)	2235(93.7)	108(4.5)
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	368	7(1.9)	346(94.0)	15(4.1)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	228	6(2.6)	213(93.4)	9(3.9)
陸上からの釣り	351	2(0.6)	331(94.3)	18(5.1)
シュノーケリング	412	9(2.2)	391(94.9)	12(2.9)
流れのあまりない場所でのボート遊び	345	4(1.2)	325(94.2)	16(4.6)
ボートからの釣り	246	5(2.0)	224(91.1)	17(6.9)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	223	4(1.8)	207(92.8)	12(5.4)
流れのある場所でのボート遊び	202	6(3.0)	187(92.6)	9(4.5)
その他	11	0(0.0)	11(100.0)	0(0.0)

表 2-11 ライフジャケットに関連した不具合の内訳

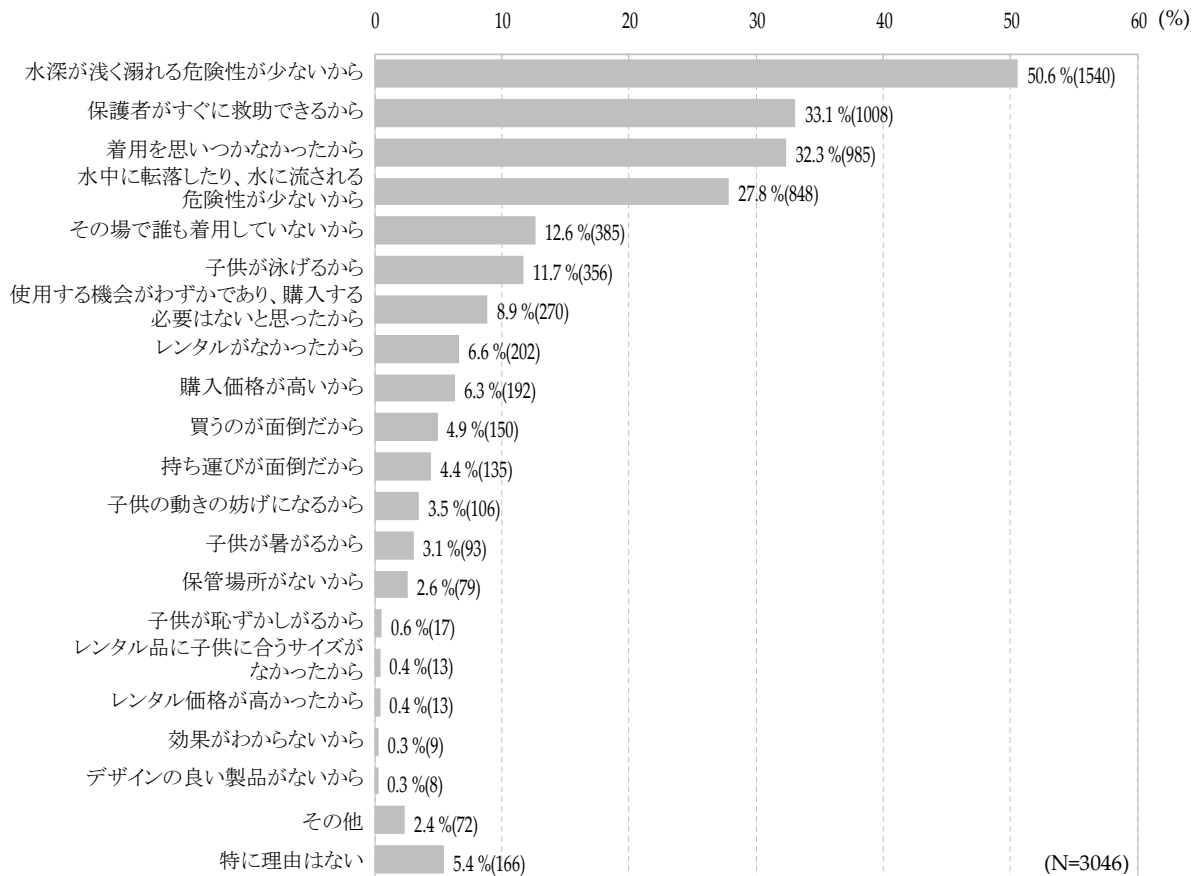
ライフジャケットの不具合	回答数	具体的な記載内容(抜粋)
サイズが合わない	4	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
シュノーケリング	1	
流れのあまりない場所でのボート遊び	1	
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	1	
脱げそうになった	3	
活動の種類別		
ボートからの釣り	1	
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	1	
流れのある場所でのボート遊び	1	
股がベルトで擦れた	3	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
シュノーケリング	2	股がベルトで擦れた
うつ伏せで浮かんでしまい危なかった	2	
活動の種類別		
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	2	顔が水面について背中が浮いている状態になって逆に溺れそうになった
ひもが引っかかった	2	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
流れのある場所でのボート遊び	1	
穴が開いた	2	
活動の種類別		
シュノーケリング	1	
ボートからの釣り	1	
着用の仕方が難しい	2	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
浮きすぎる	2	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
身体が浮かなかった	1	
活動の種類別		
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
浮力のバランスが悪い	1	
活動の種類別		
流れのある場所でのボート遊び	1	
浮いて首が苦しい	1	
活動の種類別		
シュノーケリング	1	
空気が抜けた	1	
活動の種類別		
シュノーケリング	1	
膨らみが弱かった	1	
活動の種類別		
流れのある場所でのボート遊び	1	
動きにくそうだった	1	
活動の種類別		
陸上からの釣り	1	
岩に挟まれた	1	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
無回答	16	

ク ライフジャケットを着用しなかった理由

問（「着用しなかった」と答えた方）お子さんがライフジャケットを着用しなかった理由は何ですか。この中からいくつでもお答えください。

ライフジャケットを着用しなかった理由（複数回答）を図 2-9 に示す。また、水辺の活動の種類別に見たライフジャケットを着用しなかった理由を表 2-12 に示す。なお、全体の N 数はエのライフジャケット着用の有無について「ライフジャケットを着用しなかった」と回答した数（3,046）とした。

ライフジャケットを着用しなかった理由としては「水深が浅く溺れる危険性が少ないから」が 50.6%と最も多く、次いで「保護者がすぐに救助できるから」が 33.1%、「着用を思いつかなかったから」が 32.3%と続いた。一方で、「子供が暑がるから」、「子供が恥ずかしがるから」など、子供が嫌がるからとの回答は少なかった。水辺の活動の種類別では、着用しなかった理由の割合は活動により大きく異なっていた。



「その他」計 72 回答の内訳（浮き輪を使用した 19、柵があった 9、持ってくるのを忘れた 6、浅瀬だった 4、サイズがなかった 3、ライフジャケットを持っていなかった 3、泳ぐことが目的だった 3、アームヘルパーを利用した 3、海水浴場だから 3、釣り堀だったから 2、ライフセーバーがいた 2、持っていかなかった 2、磯遊び程度だったから 2、急で準備をしていなかった 2、足こぎボートだったから 1、危ない川じゃなかったから 1、近所に売っていないから 1、川遊びが目的ではなかった 1、潜れないから 1、備品であった 1、「その他」の内訳無回答 3）

図 2-9 ライフジャケットを着用しなかった理由

表 2-12 水辺の活動の種類別に見たライフジャケットを着用しなかった理由

	計	水深が浅く溺れる危険性が少ないから	保護者がすぐに救助できるから	着用を思いつかなかったから	水中に転落したり、水に流される危険性が少ないから	その場で誰も着用していないから	子供が泳げるから	使用する機会がわずかであり、購入する必要はないと思ったから	レンタルがなかったから	購入価格が高いから	買うのが面倒だから	持ち運びが面倒だから	回答数(%)
全体	3046	1540(50.6)	1008(33.1)	985(32.3)	848(27.8)	385(12.6)	356(11.7)	270(8.9)	202(6.6)	192(6.3)	150(4.9)	135(4.4)	
活動の種類別													
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1186	702(59.2)	410(34.6)	385(32.5)	304(25.6)	156(13.2)	147(12.4)	114(9.6)	70(5.9)	71(6.0)	58(4.9)	58(4.9)	
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	971	619(63.7)	359(37.0)	324(33.4)	285(29.4)	109(11.2)	84(8.7)	64(6.6)	38(3.9)	59(6.1)	47(4.8)	38(3.9)	
陸上からの釣り	512	108(21.1)	111(21.7)	173(33.8)	178(34.8)	71(13.9)	43(8.4)	52(10.2)	48(9.4)	36(7.0)	26(5.1)	22(4.3)	
シュノーケリング	172	65(37.8)	78(45.3)	43(25.0)	28(16.3)	11(6.4)	62(36.0)	21(12.2)	10(5.8)	16(9.3)	15(8.7)	13(7.6)	
流れのあまりない場所でのボート遊び	99	21(21.2)	18(18.2)	34(34.3)	30(30.3)	20(20.2)	5(5.1)	9(9.1)	25(25.3)	3(3.0)	3(3.0)	3(3.0)	
ボートからの釣り	49	12(24.5)	15(30.6)	11(22.4)	10(20.4)	6(12.2)	6(12.2)	7(14.3)	8(16.3)	6(12.2)	1(2.0)	0(0.0)	
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	29	6(20.7)	5(17.2)	10(34.5)	7(24.1)	8(27.6)	2(6.9)	2(6.9)	3(10.3)	0(0.0)	0(0.0)	1(3.4)	
流れのある場所でのボート遊び	10	2(20.0)	6(60.0)	1(10.0)	1(10.0)	0(0.0)	3(30.0)	1(10.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	
その他	18	5(27.8)	6(33.3)	4(22.2)	5(27.8)	4(22.2)	4(22.2)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.6)	0(0.0)	0(0.0)	

表 2-12 水辺の活動の種類別に見たライフジャケットを着用しなかった理由 (続き)

		回答数(%)									
	計 (再掲)	子供の動きの妨げになるから	子供が暑がるから	保管場所がないから	子供が恥ずかしいから	レンタル品に合うサイズがなかったから	レンタル価格が高かったから	効果がわからないから	デザインの良い製品がないから	その他	特に理由はない
全体	3046	106(3.5)	93(3.1)	79(2.6)	17(0.6)	13(0.4)	13(0.4)	9(0.3)	8(0.3)	72(2.4)	166(5.4)
活動の種類別											
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1186	39(3.3)	43(3.6)	33(2.8)	9(0.8)	5(0.4)	6(0.5)	6(0.5)	2(0.2)	26(2.2)	60(5.1)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	971	38(3.9)	25(2.6)	25(2.6)	4(0.4)	2(0.2)	5(0.5)	2(0.2)	3(0.3)	8(0.8)	43(4.4)
陸上からの釣り	512	18(3.5)	21(4.1)	10(2.0)	1(0.2)	1(0.2)	1(0.2)	1(0.2)	2(0.4)	17(3.3)	36(7.0)
シュノーケリング	172	9(5.2)	0(0.0)	9(5.2)	2(1.2)	3(1.7)	1(0.6)	0(0.0)	0(0.0)	14(8.1)	10(5.8)
流れのあまりない場所でのボート遊び	99	1(1.0)	1(1.0)	1(1.0)	1(1.0)	1(1.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.0)	2(2.0)	5(5.1)
ボートからの釣り	49	0(0.0)	2(4.1)	1(2.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	6(12.2)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	29	0(0.0)	1(3.4)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(10.3)
流れのある場所でのボート遊び	10	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(10.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(20.0)
その他	18	1(5.6)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(27.8)	1(5.6)

ケ ライフジャケットを着用しなかったことによる危険な経験の有無

問（「着用しなかった」と答えた方）お子さんがライフジャケットを着用しなかったことで、危険な経験をしたことがありましたか。（例、水に落ちて溺れそうになったなど。）

ライフジャケットを着用しなかったことによる危険な経験の有無を図 2-10 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た、ライフジャケットを着用しなかったことによる危険な経験の有無を表 2-13 に示す。なお、全体の N 数は、エのライフジャケット着用の有無について「ライフジャケットを着用しなかった」と回答した数（3,046）とした。さらに、ライフジャケットを着用しなかったことによる危険な経験の内訳を表 2-14 に示す。

全体では危険な経験について「なかった」が 97.8%であった。水辺の活動の種類別による大きな違いは見られなかった。また、危険な経験の内訳としては、転倒して水に落ちたが 6 件、流された・流されそうになった、水に落ちたがそれぞれ 5 件、波にのまれたが 3 件などであった。

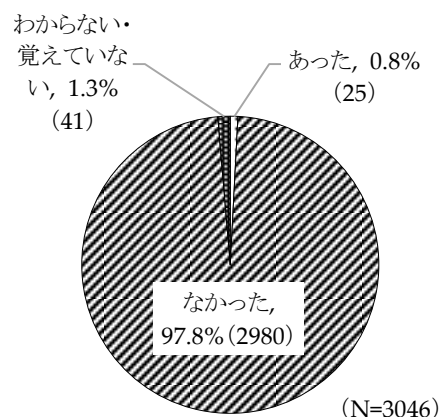


図 2-10 ライフジャケットを着用しなかったことによる危険な経験

表 2-13 水辺の活動の種類別に見た、ライフジャケットを着用しなかったことによる危険な経験の有無

	回答数(%)			
	計	あった	なかった	わからない・覚えていない
全体	3046	25(0.8)	2980(97.8)	41(1.3)
活動の種類別				
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1186	12(1.0)	1160(97.8)	14(1.2)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	971	10(1.0)	952(98.0)	9(0.9)
陸上からの釣り	512	1(0.2)	503(98.2)	8(1.6)
シュノーケリング	172	2(1.2)	169(98.3)	1(0.6)
流れのあまりない場所でのボート遊び	99	0(0.0)	95(96.0)	4(4.0)
ボートからの釣り	49	0(0.0)	47(95.9)	2(4.1)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	29	0(0.0)	27(93.1)	2(6.9)
流れのある場所でのボート遊び	10	0(0.0)	9(90.0)	1(10.0)
その他	18	0(0.0)	18(100.0)	0(0.0)

表2-14 ライフジャケットを着用しなかったことによる危険な経験の内訳

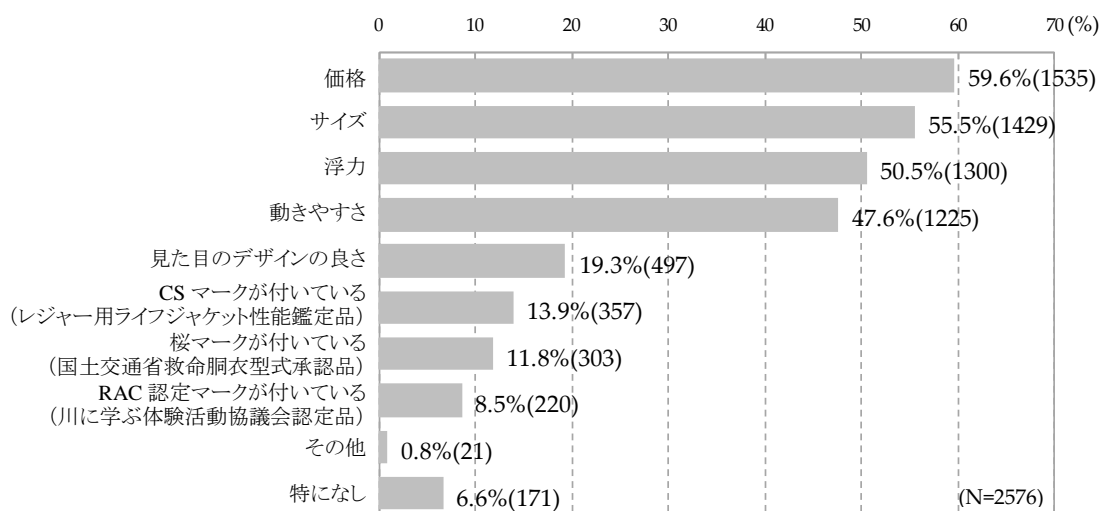
危険な経験	回答数	具体的な記載内容(抜粋)
転倒して水に落ちた	6	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり（釣りは除く）	3	足を滑らせ濡れかけた
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）	3	足が滑って転んだ
流された・流されそうになった	5	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり（釣りは除く）	2	少しだけ、沖合に流された
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）	2	軽く流された
シュノーケリング	1	
水に落ちた	5	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり（釣りは除く）	1	
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）	3	水に落ちた
陸上からの釣り	1	
波にのまれた	3	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり（釣りは除く）	3	波にのまれた
溺れた、濡れかけた	2	
活動の種類別		
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）	2	目を離した隙におぼれていた
深みにはまった	1	
活動の種類別		
シュノーケリング	1	
浮輪から波に弾かれて砂に突き刺さった	1	
活動の種類別		
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1	
無回答	2	

コ ライフジャケットを購入する際に重視する点

問 ライフジャケットを購入する際、重視する点は何ですか。この中からいくつでもお答えください。すでに購入した方は、購入した際に重視した点をお答えください。現在購入していない方は、今後購入するものとしてお答えください。

ライフジャケットを購入する際に重視する点（複数回答）を図 2-11 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た、ライフジャケットを購入する際に重視する点を表 2-15 に示す。なお、全体の N 数は回答者数（2,576）とした。

ライフジャケットを購入する際に重視する点としては「価格」が 59.6%で最も多く、次いで「サイズ」が 55.5%、「浮力」が 50.5%、「動きやすさ」が 47.6%であった。水辺の活動の種類別では、「ボート（船外機付きミニボート、手漕ぎボートなど）からの釣り」及び「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」で、マーク付きを重視する割合が全体に比べ 10 から 15 ポイント程度高かった。



「その他」計 21 回答の内訳（性能・安全性 4、ロコミ 3、股下のベルト 3、コンパクトさ 2、着脱しやすいもの 2、レンタルする 1、世の中の浸透度 1、お店の方の説明 1、危険な所へは行かないので買わない 1、ブランド 1、固型式かどうか 1、「その他」の内訳無回答 1）

図 2-11 ライフジャケットを購入する際に重視する点

表 2-15 水辺の活動の種類別に見た、ライフジャケットを購入する際に重視する点

活動の種類別*	回答数(%)										
	計	価格	サイズ	浮力	動きやすさ	見た目のデザイン の良さ	CSマーク が付いて いる(レジ ジャー用ライ フジャケット 性能鑑 定品)	桜マーク が付いて いる(国土 交通省救 命胴衣型 式承認品)	RAC認定 マークが 付いている (川に学ぶ 体験活動 協議会 認定品)	その他	特になし
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1565	968(61.9)	936(59.8)	794(50.7)	803(51.3)	332(21.2)	230(14.7)	197(12.6)	141(9.0)	14(0.9)	73(4.7)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1213	776(64.0)	691(57.0)	632(52.1)	614(50.6)	263(21.7)	184(15.2)	162(13.4)	120(9.9)	14(1.2)	63(5.2)
陸上からの釣り	870	516(59.3)	497(57.1)	454(52.2)	429(49.3)	181(20.8)	143(16.4)	117(13.4)	82(9.4)	8(0.9)	47(5.4)
シュノーケリング	588	361(61.4)	372(63.3)	302(51.4)	295(50.2)	130(22.1)	89(15.1)	74(12.6)	60(10.2)	2(0.3)	25(4.3)
流れのあまりない場所でのボート遊び	446	255(57.2)	273(61.2)	260(58.3)	234(52.5)	103(23.1)	75(16.8)	61(13.7)	53(11.9)	1(0.2)	31(7.0)
ボートからの釣り	296	153(51.7)	180(60.8)	166(56.1)	142(48.0)	67(22.6)	81(27.4)	80(27.0)	65(22.0)	0(0.0)	7(2.4)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	254	131(51.6)	150(59.1)	158(62.2)	131(51.6)	54(21.3)	62(24.4)	51(20.1)	53(20.9)	2(0.8)	15(5.9)
流れのある場所でのボート遊び	212	110(51.9)	131(61.8)	124(58.5)	119(56.1)	49(23.1)	46(21.7)	40(18.9)	37(17.5)	4(1.9)	18(8.5)
その他	31	16(51.6)	22(71.0)	20(64.5)	15(48.4)	3(9.7)	5(16.1)	3(9.7)	3(9.7)	0(0.0)	4(12.9)

* ライフジャケットを購入する際に重視する点を、活動の種類別の回答別に集計した。一人の回答者が複数の種類の活動に同行している場合があるため、活動の種類別の合計は経験した活動の回答数(5475)となる。

サ ベルト締付け不足の危険性の認知度

問 ライフジャケットのベルトが締付け不足の場合、浮かぶ力が低下するおそれがあることを知っていましたか。

ベルト締付け不足の危険性の認知度を、図 2-12 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た、ベルト締付け不足の危険性の認知度を表 2-16 に示す。なお、全体の N 数は回答者数 (2,576) とした。

全体としては「知っていた」が 35.4%、「知らなかった」が 64.6%であった。水辺の活動の種類別では、「ボート（船外機付きミニボート、手漕ぎボートなど）からの釣り」、「流れのある場所（海、川など）でのボート遊び（カヌー・カヤック・ラフティングなど）」及び「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」などで「知っていた」の割合が高かった。

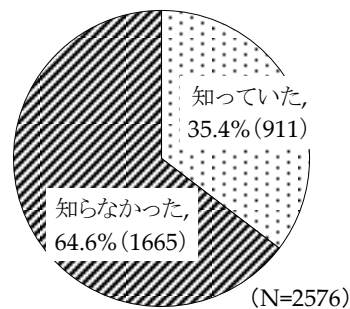


図 2-12 ベルト締付け不足の危険性の認知度

表 2-16 水辺の活動の種類で見た、ベルト締付け不足の危険性の認知度

活動の種類別*	回答数(%)		
	計	知っていた	知らなかった
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1565	567(36.2)	998(63.8)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1213	435(35.9)	778(64.1)
陸上からの釣り	870	370(42.5)	500(57.5)
シュノーケリング	588	276(46.9)	312(53.1)
流れのあまりない場所でのボート遊び	446	201(45.1)	245(54.9)
ボートからの釣り	296	176(59.5)	120(40.5)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	254	127(50.0)	127(50.0)
流れのある場所でのボート遊び	212	115(54.2)	97(45.8)
その他	31	10(32.3)	21(67.7)

* ベルト締付け不足の危険性の認知度を、活動の種類別の回答別に集計した。一人の回答者が複数の種類の活動に同行している場合があるため、活動の種類別の合計は経験した活動の回答数(5475)となる。

シ 股下ベルト不使用時の危険性の認知度

問 股下ベルトがあるライフジャケットで股下ベルトを使用しない場合、ライフジャケットが脱落する危険性があることを知っていましたか。

股下ベルト不使用時の危険性の認知度を、図 2-13 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た、股下ベルト不使用時の危険性の認知度を表 2-17 に示す。なお、全体の N 数は回答者数 (2,576) とした。

股下ベルト不使用時の危険性については「知っていた」が 40.3%、「知らなかった」が 59.7% であった。活動の種類別では、「ボート（船外機付きミニボート、手漕ぎボートなど）からの釣り」、「流れのある場所（海、川など）でのボート遊び（カヌー・カヤック・ラフティングなど）」及び「シュノーケリング」などで「知っていた」の割合が高かった。

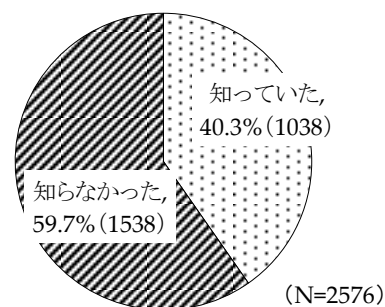


図 2-13 股下ベルト不使用時の危険性の認知度

表 2-17 水辺の活動の種類別に見た、股下ベルト不使用時の危険性の認知度

活動の種類別*	回答数(%)		
	計	知っていた	知らなかった
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1565	666(42.6)	899(57.4)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1213	501(41.3)	712(58.7)
陸上からの釣り	870	424(48.7)	446(51.3)
シュノーケリング	588	324(55.1)	264(44.9)
流れのあまりない場所でのボート遊び	446	222(49.8)	224(50.2)
ボートからの釣り	296	179(60.5)	117(39.5)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	254	134(52.8)	120(47.2)
流れのある場所でのボート遊び	212	118(55.7)	94(44.3)
その他	31	14(45.2)	17(54.8)

* 股下ベルト不使用時の危険性の認知度を、活動の種類別の回答別に集計した。一人の回答者が複数の種類の活動に同行している場合があるため、活動の種類別の合計は経験した活動の回答数(5475)となる。

ス ホワイトウォーターにおける浮力低下の認知度

問 ホワイトウォーター(白く泡立った流れ)の中では、ライフジャケットの浮かぶ力が低下し、ライフジャケットを着用していても水面上に顔を出すことが難しくなる場合があることを知っていましたか。

ホワイトウォーターにおける浮力低下の認知度を、図 2-14 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た、ホワイトウォーターにおける浮力低下の認知度を表 2-18 に示す。なお、全体の N 数は回答者数 (2,576) とした。

ホワイトウォーターにおける浮力低下の認知度は「知っていた」が 18.2%、「知らなかった」が 81.8%であり、ベルト締付け不足や股下ベルト不使用時の危険性の認知度よりも低かった。水辺の活動の種類別では、「ボート(船外機付きミニボート、手漕ぎボートなど)からの釣り」、「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」及び「流れのある場所(海、川など)でのボート遊び(カヌー・カヤック・ラフティングなど)」などで「知っていた」の割合が高かった。

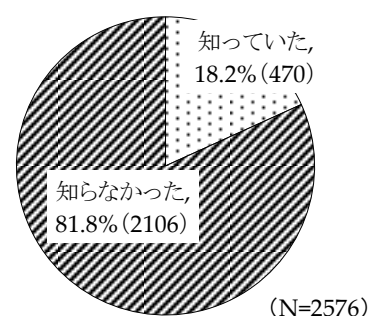


図 2-14 ホワイトウォーターにおける浮力低下の認知度

表 2-18 水辺の活動の種類別に見た、ホワイトウォーターにおける浮力低下の認知度

活動の種類別*	ホワイトウォーターにおける浮力低下の認知度		
	計	知っていた	知らなかった
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1565	288(18.4)	1277(81.6)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1213	228(18.8)	985(81.2)
陸上からの釣り	870	203(23.3)	667(76.7)
シュノーケリング	588	140(23.8)	448(76.2)
流れのあまりない場所でのボート遊び	446	111(24.9)	335(75.1)
ボートからの釣り	296	131(44.3)	165(55.7)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	254	81(31.9)	173(68.1)
流れのある場所でのボート遊び	212	61(28.8)	151(71.2)
その他	31	6(19.4)	25(80.6)

* ホワイトウォーターにおける浮力低下の認知度を、活動の種類別の回答別に集計した。一人の回答者が複数の種類の活動に同行している場合があるため、活動の種類別の合計は経験した活動の回答数(5475)となる。

セ リサーキュレーション（循環流）による脱出困難の認知度

問 堰堤の下などで発生するリサーキュレーション(循環流)に入ると、ライフジャケットを着用していても脱出困難になる場合があることを知っていましたか。

リサーキュレーションによる脱出困難の認知度を図 2-15 に示す。また、水辺の活動の種類別に見た、リサーキュレーション（循環流）による脱出困難の認知度を表 2-19 に示す。なお、全体の N 数は回答者数（2,576）とした。

リサーキュレーション（循環流）による脱出困難の認知度は、「知っていた」が 25.3%、「知らなかった」が 74.7%であった。水辺の活動の種類別では「ボート（船外機付きミニボート、手漕ぎボートなど）からの釣り」、「流れのある場所（海、川など）でのボート遊び（カヌー・カヤック・ラフティングなど）」及び「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」などで「知っていた」の割合が高かった。

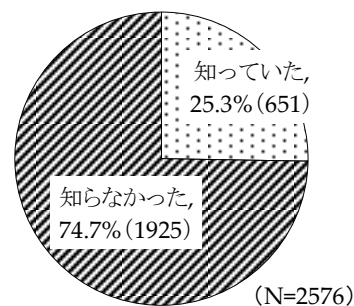


図 2-15 リサーキュレーション(循環流)による脱出困難の認知度

表 2-19 水辺の活動の種類別に見た、リサーキュレーション（循環流）による脱出困難の認知度

活動の種類別*	回答数(%)		
	計	リサーキュレーションによる脱出困難の認知度	
		知っていた	知らなかった
海での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1565	407(26.0)	1158(74.0)
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く)	1213	329(27.1)	884(72.9)
陸上からの釣り	870	267(30.7)	603(69.3)
シュノーケリング	588	185(31.5)	403(68.5)
流れのあまりない場所でのボート遊び	446	144(32.3)	302(67.7)
ボートからの釣り	296	141(47.6)	155(52.4)
エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり	254	92(36.2)	162(63.8)
流れのある場所でのボート遊び	212	81(38.2)	131(61.8)
その他	31	5(16.1)	26(83.9)

* リサーキュレーション（循環流）による脱出困難の認知度を、活動の種類別の回答別に集計した。一人の回答者が複数の種類の活動に同行している場合があるため、活動の種類別の合計は経験した活動の回答数(5475)となる。

ソ メーカーや行政への要望

問 子供用ライフジャケットについて、メーカーや行政への要望がありましたらお書きください。

子供用ライフジャケットに関するメーカーや行政への要望について、自由記述で回答を得た。回答内容を内容別に集計した結果を表 2-20 に、実際の回答の抜粋を表 2-21 に示す。全体の N 数は回答者数 (2,576) であるが、一つの回答を複数の内容に分類したことがあるため、表 2-21 の回答数の合計は 3,289 である。

主な要望としては「安くしてほしい、低価格、手頃」が 297 件、「啓蒙活動、認知向上、注意喚起してほしい」が 262 件であった。

表 2-20 子供用ライフジャケットに関するメーカーや行政への要望の内容別集計

大分類	小分類	回答数
価格・購入・レンタル	安くしてほしい、低価格、手頃	297
	貸出、レンタル、無料設置してほしい	146
	補助金を出してほしい	52
	無料配布してほしい	25
	学校で無料配布・設置・貸出	11
	買い替えの際の下取り、リサイクル	8
	学校経由で購入	6
	情報提供	啓蒙活動、認知向上、注意喚起してほしい
買いやすくしてほしい、どこで売っているかわからない	124	
メディア、広告、CM、テレビでの啓蒙	40	
適切な着用方法、使用方法の説明	36	
学校で講習、情報提供	33	
どれを選べばいいかわからない、基準・推奨するものを教えてほしい、身長体重を細かく書いてほしい	29	
イベント、講習会、説明会での啓蒙	13	
品質	安心・安全性	179
	高性能、品質を上げて欲しい	111
	簡単、使い勝手が良い、手軽	66
	品質の保証、基準	37
	ちゃんと浮く	35
	暑くならない	25
	耐久性	13
サイズ・デザイン	デザインがよい	94
	着脱しやすい、簡単に着けられる	94
	動きやすい、着心地がいい	80
	持ち運びやすい、コンパクト、収納しやすい	77
	サイズ調整ができる、長く使える	67
	子供の成長に合わせないといけない、すぐサイズアウトする	55
	軽量化、薄くしてほしい	53
	サイズ展開を多くしてほしい	51
	種類を増やしてほしい	11
義務化	着用を義務化してほしい	74
	行政の関与は不要、義務化しないでほしい	5
	設置の義務化	4
機会、気づき等	使う機会がない・使用頻度が低い	33
	このアンケートをやって重要性を知った、今後気を付けたい	23
	今まで必要性を感じなかった	22
	来年買いたい、今後使いたい	5
	必要ない、必要性を感じない	5
その他	その他	17
	分からない・詳しくない	22
	特になし	949
合計		3289

表 2-21 子供用ライフジャケットに関するメーカーや行政への要望(抜粋)

大分類	小分類	実際の回答
価格・購入・レンタル	安くしてほしい、低価格、手頃	ライフジャケットがもっと一般的に使えるように、低価格化を実現してほしい。
		買いやすい価格を希望する。兄弟がいる場合、高価だと負担が大きく諦めてしまうから。
		値段をもっと安くするか、補助などがあると助かります。子供はすぐ大きくなるので、数年ごとに買い換えないといけないのは負担が大きいです。
貸出、レンタル、無料設置してほしい		安ければ安い程、大丈夫かな？？と思う商品は多々あります。あまりにも高いものは買えないし、手頃な値段で安心して使用できる商品を増やして頂ければと思います。
		川の事故が多すぎる。バーベキュー場などでライフジャケットの貸し出しなどを行っても良いと思う。
		危険な箇所であれば無償で貸与してほしい。海外では多くのところで無償で借りることが可能。
補助金を出してほしい		市役所や区役所に行くことで、子供用のライフジャケットが、一定期間、無償で借りられるようにしてほしい。
		子供の体形は毎年変わって行くので、海や川などの遊び場や、付近の観光案内所や、行政施設での貸出を低価格で提供してくれると、利用する人が増えると思う。また、メーカーから購入した人は次のサイズを購入する時の割引きがあると良いと思う。行政や施設などは、購入した人が使わなくなったサイズを引き取ったりすれば良いと思う。
		市から自転車ヘルメット助成金があるように、助成金などがあるとずっと普及すると思います。
情報提供	啓蒙活動、認知向上、注意喚起してほしい	助成金があれば購入を考える人が増えると思う。
		股下ベルトをしていない親子をよく見かけますので、もっと股下ベルトの重要性を周知して股下ベルトをしなくて不幸になる親子をなくしてほしいです。
		もう少し必要性のアピールが。売っていることもあまり知らなかった。
買いやすくしてほしい、どこで売っているかわからない		重要性がいまいち理解できていない人が多く、店頭でも目に入っていないので、もう少しアピールや売り場の改善が必要かと思います。
		家族での遊びではなかなかライフジャケットを着用することが思いつかないのが現状だと思う。水辺でのイベント開催側や国で着用することの必要性をもっと広めてほしい。
		気軽に買えない。売ってない。
メディア、広告、CM、テレビでの啓蒙		実際に買おうと思ってもどこで買えばいいのか、思い付きにくいのでもう少し広く展開してほしい。
		今まで聞いたことが無いので、TV やラジオ、新聞広告などで告知をしていただきたい。
		水着売場で働くことがあり、フローティングベストを扱いました。価格は手頃でしたが大人用はあまり売れませんでした。でも子供の川遊びの時に必要と思います。是非、夏休み前に、SNS(若い年代向け)や、新聞等(祖父祖母向け)で、プロの話をからめてライフジャケットの必要性を伝えて頂きたいと思います。
適切な着用方法、使用方法の説明		正しい着用方法と、簡単に着脱できて遊びに負担のないデザインを考えてほしい。着脱が難しかったり、手こずると結局着用しなくなる。
		購入したライフジャケットには事故を想定しての詳しい説明書きは、なかったので正しい装着に関してきちんと記載してほしい。
学校で講習、情報提供		小学校などでライフジャケットの講習があると良い。
		学校や地域の防災訓練などで、ライフジャケットの着用方法などを取り入れていき、もう少し身近なものになっていくといいのではと思う。
		以前甥っ子が川の浅瀬で一緒に遊んでいてあっという間に足をとられて溺れた事がありました。その時はお父さんがすかさず川に飛び込み助ける事が出来ましたが、まわりにいた大人たちはいざとなったら何も出来ずにただただおびえただけでした。その時に川の怖さを知り、川での遊びをするときはライフジャケットを使用するようになりました。わたしのように怖い経験をしていても、実際に着用時の注意を知らずに使っている方も多い気がします。私も今回知った事をまわりの友人などには伝えたいと思いますが、川での遊ぶ時期などに学校や幼稚園などで、こういった注意事項をお知らせするチラシのようなものを配布すれば一度は目を通すような気がします。一人でも川や海などで犠牲になるお子さまが少なくなるようにお知らせチラシを作成して頂きますようお願いいたします。

表 2-21 子供用ライフジャケットに関するメーカーや行政への要望(抜粋) (続き)

大分類	小分類	実際の回答
品質	安心・安全性	様々な状況下で使う事を想定して、たくさんのテストをして安全性を上げていってほしい。
		安全性は損なわず、子供が着ていて動くことに違和感を感じにくい、動きやすいライフジャケットを提供して欲しい。
		値段が高くてもいいので安全性が高く子供も自分から装着してくれるようにキャラクターやデザインが可愛いものがあると嬉しいです。
	高性能、品質を上げて欲しい	股下には必ず通すひもがあることが義務付けする。
		当たり前の要望ですが、もう少し薄く軽く柔らかい素材で出来たライフジャケットがあったら嬉しいかな。
	簡単、使い勝手が良い、手軽	首などの肌当たるかもしれない部分は柔らかい素材にしてほしい。
品質の保証、基準	説明を聞かなくてもわかるよう、わかりやすく安全なものをお願いします！	
ちゃんと浮く	誰にでもわかる安全基準 安全な物だけが市場に出回るように、また、ライフジャケット着用を義務化すれば、事故も減るのかなと思う。	
サイズ・デザイン	デザインがよい	どんな場面でもちゃんと浮く物を開発してほしい。
		かわいいものや、アウトドアブランドのものとか、いろんな種類がほしい。
		機能性を追うとかわいいのがなくて、子供が使いたがらないので、デザインをよくしてほしい。
	着脱しやすい、簡単に着られる	余計な装飾(引っ掛かるような紐等)はなく、シンプルで軽く、暑くない素材がよい。
		子供でも脱着しやすい製品を開発してほしい。
	動きやすい、着心地がいい	子供が着ても動きやすく、軽量化されているものがあるといいと思います。 もう少し、動きやすい厚さにはなりませんか？
	持ち運びやすい、コンパクト、収納しやすい	荷物になるので持ち運びに便利なものを作ってほしい。
		子供が3人もいるので保管場所に困るのでもう少しコンパクトな物があったらいいなと思います。
	サイズ調整ができる、長く使える	減多に使わないものなので、購入後数年使えるようにサイズ調整が出来るといいと思います。
	子供の成長に合わせないといけない、すぐサイズアウトする	昔は購入したんですが、すぐにサイズが合わなくなりました。購入するのではなく簡単にレンタルするシステムがあれば活用しやすいのではないかと思います。
軽量化、薄くしてほしい	軽くて動きやすい。また普段着みたいなもの希望。	
	重くて暑くて着たがらないので軽くて安全性の高いもの	
サイズ展開を多くしてほしい	サイズバリエーションがもう少しあっても良いと思う。	
	サイズが小さいものが少ない。	
義務化	着用を義務化してほしい	着用の義務化にすれば、着用の必要性が認知されると思う。 川辺での遊びに使用義務化や、使い方の説明を必ず促す事が必要だと思う。
機会、気づき等	使う機会がない・使用頻度が低い	年に数回しか使わないのもったいないと思っています。

3 着用状況実地調査

(1) 調査方法

ライフジャケットの着用状況を調査するため、都内 10 か所で実地調査を行った。調査実施場所と時期を表 3-1 に示す。

調査項目は、対象者の年齢、対象者のライフジャケット着用の有無、対象者が中学生以下でライフジャケットを着用している場合は股下ベルトの有無及び股下ベルトの着用の有無とした。調査は調査員 1 名が目視で観察した。対象者の年齢や、股下ベルト着用の有無については、目視でのみ判断し、対象者から聞き取りは行わなかった。このため、年齢と股下ベルト着用の有無については、実際とは異なる可能性がある。

表 3-1 ライフジャケット着用状況実地調査 調査実施場所と時期

場所	時期
流れがあまりない場所	
23 区東部の川①	2018 年 10 月の休日・午前 10 時 30 分ごろから約 30 分間
西多摩地域の湖沼	2018 年 9 月の休日・午前 10 時ごろから約 1 時間
流れがある場所	
23 区東部の川②	2018 年 9 月の休日・午後 1 時 30 分ごろから約 10 分間
23 区西部の川	2018 年 8 月の平日・午後 3 時 30 分ごろから約 30 分間
23 区西部の河口	2018 年 9 月の休日・午後 4 時ごろから約 10 分間
西多摩地域の川①	2018 年 8 月の平日・午前 10 時ごろから約 1 時間 30 分
西多摩地域の川②	2018 年 8 月の平日・午後 12 時 30 分ごろから約 40 分間
西多摩地域の川③	1 回目：2018 年 8 月の平日・午前 10 時 30 分ごろから約 20 分間 2 回目：2018 年 9 月の休日・午後 1 時ごろから約 10 分間
西多摩地域の川④	1 回目：2018 年 8 月の平日・午後 12 時 30 分ごろから約 15 分間 2 回目：2018 年 9 月の休日・午後 3 時 30 分ごろから約 10 分間
海	
23 区西部の海浜公園	2018 年 8 月の平日・午後 1 時ごろから約 30 分間

(2) 調査結果

小学生の調査結果を表 3-2 に、他の対象者の調査結果を付録 1 に示す。小学生では、陸上からの釣りや、対象者数は少ないものの海での水遊び、魚とり（釣りは除く）では、ライフジャケット着用率は 0%であった。これに対し、流れのある場所でのボート遊び（カヌー・カヤック・ラフティングなど）や、対象者数は少ないものの流れのあまりない場所でのボート遊び（カヌーなど）での着用率は 100%であった。川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）では、着用率は 21.6%であった。ただし、股下ベルトがあるにも関わらず股下ベルトを着用していない対象者が全体で 3 人（着用者の 18.8%）いた。大人では、陸上からの釣り、海での水遊び、魚とり（釣りは除く）、及び川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）で、ライフジャケット着用率は 0%であった。

表 3-2 ライフジャケット着用状況実地調査結果

観察数。()内及びライフジャケット着用率は%。—は該当なしを示す。

計	小学生(推定6歳から12歳まで)					
	ライフジャケット着用あり					ライフジャケット着用率
	股下ベルト着用あり	股下ベルトあるが着用なし	股下ベルトの有無・着用状況不明	ライフジャケット着用なし		
全体	140	14(10.0)	3(2.1)	42(30.0)	81(57.9)	42.1
陸上からの釣り 計	17	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	17(100.0)	0.0
23区西部の河口	5	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)	0.0
西多摩地域の川①	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—
23区西部の海浜公園	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—
23区西部の川	5	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)	0.0
西多摩地域の川③(8月)	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—
西多摩地域の川③(9月)	1	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(100.0)	0.0
西多摩地域の川④(8月)	5	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)	0.0
西多摩地域の川④(9月)	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—
23区東部の川②	1	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(100.0)	0.0
流れがあまりない場所でのボート遊び 計	3	3(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	100.0
23区東部の川①	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—
西多摩地域の湖沼	3	3(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	100.0
流れのある場所でのボート遊び 計	40	0(0.0)	0(0.0)	40(100.0)	0(0.0)	100.0
西多摩地域の川①	40	0(0.0)	0(0.0)	40(100.0)	0(0.0)	100.0
海での水遊び、魚とり(釣りは除く) 計	6	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	6(100.0)	0.0
23区西部の海浜公園	6	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	6(100.0)	0.0
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり(釣りは除く) 計	74	11(14.9)	3(4.1)	2(2.7)	58(78.4)	21.6
西多摩地域の川①	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—
西多摩地域の川②	29	5(17.2)	1(3.4)	0(0.0)	23(79.3)	20.7
23区西部の川	5	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)	0.0
西多摩地域の川③(8月)	9	2(22.2)	1(11.1)	0(0.0)	6(66.7)	33.3
西多摩地域の川③(9月)	21	1(4.8)	1(4.8)	2(9.5)	17(81.0)	19.0
西多摩地域の川④(8月)	7	3(42.9)	0(0.0)	0(0.0)	4(57.1)	42.9
西多摩地域の川④(9月)	3	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(100.0)	0.0

ライフジャケット着用率は{(ライフジャケット着用あり/観察総数)×100}とする。
 年齢区分と股下ベルト着用の有無は観察者の判断によるため、実際と異なる可能性がある。
 小数点第二位を四捨五入したため、%の合計が 100 にならない場合がある。

4 試験・表示調査

(1) 実施期間

2018年9月から11月まで

(2) 検体

子供用の固型式ライフジャケットを検体とした。

2018年9月に、あるインターネットショッピングサイトで、「ライフジャケット」と検索し、表示された商品のうち子供用のものを抽出した。その中から、浮力2.5kgから3.5kgまでの商品を5点、浮力4.0kgから6.0kgまでの商品を5点、計10点を、1点当たりの最高価格5,000円(税込)以下で、安価な順に選定した。浮力2.5kgから3.5kgまでの商品と、浮力4.0kgから6.0kgまでの商品で、それぞれ最低1点は股下ベルトがない商品を購入することとし、股下ベルトがない商品が存在しない場合は、全て股下ベルトがある商品を購入した。ただし、国土交通省型式承認品、日本小型船舶検査機構性能鑑定品及びRAC川育ライフジャケット認定品、並びにサイト上に浮力が表示されていない商品は除外した。さらに、商品名、型番、サイト上の写真から判断して、同一ブランドや同一メーカーと思われる商品は選定を避けた。

同一商品でサイズや浮力が異なる商品がある場合、①浮力2.5kgから3.5kgまで、②浮力4.0kgから6.0kgまで、の順で交互にどちらか一方の浮力の商品を選定した。なお、浮力4.0kgから6.0kgまでの商品では、価格5,000円以下で股下ベルトがない商品をサイト内に確認できなかったため、全て股下ベルトがある商品を選定した。検体の一覧を表4-1に示す。

(3) 試験方法

ア 浮力試験

それぞれの検体について、小型船舶用救命胴衣(膨脹式及び呼気併用式以外のもの)の型式承認試験のための試験方法及び判定基準のうち、「浮力試験」¹⁾に準じ、検体に図4-1のように金属片を吊下げ、淡水に浮かべ、24時間以上浮き続けられるかを試験した。金属片の質量は検体の本体、添付文書またはホームページに記載された浮力と同じ質量とした。実験は、屋内水槽(内寸幅4.0m、奥行2.5m、水深2.0m)で実施した。



図4-1 金属片の吊下げ状況

イ 不適切な使用法の再現実験

(ア) 実験条件

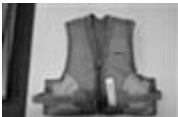









検体の中から、身長130cmに適應するとの表示があるものの中で、股下ベルトがあり、実測した胴回りが最も長い検体1点(検体6)を選んだ。実験は、屋内水槽(内寸幅4.0m、奥行2.5m、水深2.0m)で実施した。

(イ) 実験方法

検体を水難用ダミー人形(Simulaid社製ウォーターレスキューマネキン少年モデル。身長124.4cm、重量10.9kg)に適正に着用させて屋内水槽に浮かべ、ライフ

ジャケットの着用状態を観察した。次に、検体に付属する全てのベルトを最も緩めた条件で水難用ダミー人形に着用させ屋内水槽に浮かべ、人形の下肢を上下左右に動かした後、ライフジャケットの着用状態を観察した。

表 4-1 検体に用いたライフジャケット

検体No.	浮力区分(kg)		表示 浮力(kg)	股下ベルトの 有無	製品外観	価格 (税込・円)
	2.5~3.5	4.0~6.0				
1	○	—	約3	有り		1198
2	○	—	2.8	有り		1280
3	○	—	約2.5	有り		1340
4	○	—	2.8	有り		1380
5	○	—	3.5	無し		2473
6	—	○	4.3	有り		1230
7	—	○	5	有り		1280
8	—	○	5	有り		1398
9	—	○	5以上	有り		2499
10	—	○	5.4	有り		2870

○：該当 —：非該当

ウ 表示調査

インターネットショッピングサイトの検体に関するホームページの表示、検体本体及び検体に付属する紙ラベルに記載された表示内容を調査した。

表示された文字のうち、表 4-2 に該当する内容について、表示箇所、表示の有無、表示内容を調査した。

表 4-2 表示調査事項

表示内容
製造者、卸業者または販売者の事業者名
製造者、卸業者または販売者の所在
製造者、卸業者または販売者の電話番号
対象者の年齢
対象者の身長
対象者の体重
浮力
法定の船舶用救命胴衣ではないこと
体格に合ったサイズを選ぶこと
ベルト着用上の注意事項
使用を控えるべき場所

エ 模型を用いた危険箇所の再現実験

ライフジャケットを着用していても特に危険であるリサーキュレーション（循環流）及びホワイトウォーターについて、模型を用いた再現実験を行った。

(ア) リサーキュレーション（循環流）

図 4-2 のように水路模型（内寸幅 300mm、奥行 450mm、高さ 293mm、堰堤の高さ 130mm、堰堤下流の水位 65mm）を作製した。この水路模型に、0.73 リットル毎秒の水を流し、

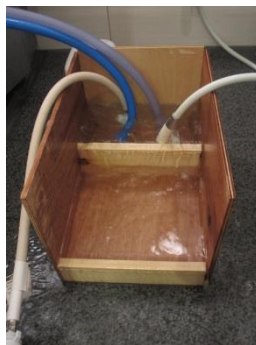


図 4-2 水路模型



図 4-3 人形の設定状況(循環流)

堰堤中央から下流側に垂直に 15 cm 離れた場所に、人形（金属・木製、高さ 125mm、幅 45mm、重量 19g、模擬ライフジャケットを着用。水中で足部側が沈むよう両下腿部に各 0.85g の板重りを取付けた。）を、頭部と足部を結んだ線が堰堤に水平になるように浮かべ（図 4-3）、人形の動きを観察した。実験は 10 回繰り返し行った。

(イ) ホワイトウォーター

図 4-4 のように、水槽（内寸幅 180mm、奥行 350mm、高さ 220mm）に水を入れ、ホースをつないだ観賞魚飼育用のエアストーン 3 基を底面に設置した。水面に（ア）で用



図 4-4 エアストーンを設定した水槽



図 4-5 人形の設定状況(ホワイトウォーター)

いた人形を浮かべ（図 4-5）、エアホースに呼気を吹き込みホワイトウォーターを作り、人形の動きを観察した。なお、水流により人形が水平方向へ移動しないよう、人形を囲う位置に、水槽の底に対し垂直にプラスチック板（囲い部分の内寸幅 70mm、奥行 70mm、高さ 220mm）を設置した。

(4) 試験結果

ア 浮力試験

浮力試験の結果を表 4-3 に示す。試験時の水温は、開始時 23.0℃、終了時 23.0℃であり、水温変化はなかった。

検体 7 は試験開始 20 秒後に水没し、検体 8 は試験開始直後に水没した。他の 8 検体は 24 時間後も浮いていた。

表 4-3 浮力試験結果

検体No.	表示 浮力(kg)	試験開始 時	試験開始 1分後	試験開始 1時間後	試験開始 24時間後	○：浮いた ×：沈んだ	
						概要	
1	3.0	○	○	○	○		
2	2.8	○	○	○	○		
3	2.5	○	○	○	○		
4	2.8	○	○	○	○		
5	3.5	○	○	○	○		
6	4.3	○	○	○	○		
7	5.0	○	×	×	×	試験開始20秒後に水没	
8	5.0	×	×	×	×	試験開始直後に水没	
9	5.0	○	○	○	○		
10	5.4	○	○	○	○		

イ 不適切な使用法の再現実験

実験時の水温は、開始時 35.0℃、終了時 35.0℃であり、水温変化はなかった。検体を適正な状態で着用させた人形を水に浮かべた結果を図 4-6 に、付属する全てのベルトを最も緩めた条件で検体を着用させた人形を水に浮かべた結果を図 4-7 及び図 4-8 に示す。ベルトを最も緩めた条件では、ライフジャケットの胸部と背面上部が人形胸部から浮き上がり、ライフジャケットが首から後頭部付近に引っかかり、人形の腰部と下肢が沈む状態が観察された。



図 4-6 適正な着用状態



図 4-7 ベルトを最も緩めた条件
(上方から撮影)

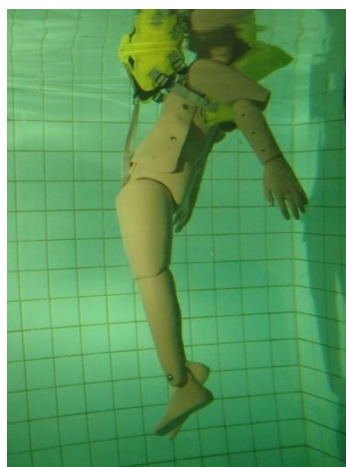


図 4-8 ベルトを最も緩めた条件
(側方から撮影)

ウ 表示調査

表示調査の結果を表 4-4 に、記載内容の詳細を付録 2 に示す。

製造者、卸業者または販売者の情報は、全ての検体のホームページに記載されていた。ベルト着用上の注意事項は、ホームページ、本体又は付属紙ラベルのいずれかには記載されていた。使用を控えるべき場所について記載された検体はなく、また法定の船舶用救命胴衣ではないことを記載していない検体が 1 検体あった。

表 4-4 表示調査結果

検体No. 表示箇所	製造者、卸業者または 販売者の情報			対象者の 年齢	対象者の 身長 (cm)	対象者の 体重 (kg)	浮力 (kg)	法定の船 舶用救命 胴衣では ないこと	体格に 合ったサ イズを選 ぶこと	ベルト着 用の注 意事 項	使用を控 えるべき 場所
	事業者名	所在	電話番号								
1											
ホームページ	○	○	○	—	90~110	—	約3	—	—	—	—
本体	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
付属紙ラベル	○	—	—	—	90~110	—	約3	○	—	○	—
2											
ホームページ	○	○	○	—	90~100	20以下	2.8	○	—	○	—
本体	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	—
付属紙ラベル	○	—	—	—	—	—	—	○	—	○	—
3											
ホームページ	○	○	○	—	90~110	—	約2.5	—	○	○	—
本体	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
付属紙ラベル	付属紙ラベルなし										
4											
ホームページ	○	○	○	—	90~100	20以下	2.8	○	—	○	—
本体	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	—
付属紙ラベル	—	—	—	—	90~100	—	—	○	—	○	—
5											
ホームページ	○	○	○	—	100~145	—	3.5	○	—	○	—
本体	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
付属紙ラベル	○	—	—	—	100~145	—	3.5	○	—	○	—
6											
ホームページ	○	○	○	—	120~130	40以下	4.3	○	—	—	—
本体	○	—	—	—	—	—	—	○	—	○	—
付属紙ラベル	○	—	—	—	120~130	約40以下	4.3	—	—	○	—
7											
ホームページ	○	○	○	—	120~150	25~35	5	○	—	—	—
本体	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
付属紙ラベル	○	○	○	—	120~150	25~35	5以上	○	—	○	—
8											
ホームページ	○	○	○	—	140~150	50以下	5	○	○	○	—
本体	—	—	—	—	140~150	—	—	○	○	○	—
付属紙ラベル	—	—	—	—	140~150	—	—	○	—	○	—
9											
ホームページ	○	○	○	—	125~135	—	5以上	○	○	○	—
本体	—	—	—	—	125~135	—	5	○	○	○	—
付属紙ラベル	○	○	—	—	130	—	—	○	○	○	—
10											
ホームページ	○	○	○	—	125~165	—	5.4	○	—	—	—
本体	○	—	○	—	125~165	—	5.4	○	○	○	—
付属紙ラベル	○	—	○	—	125~165	—	5.4	○	—	—	—

○:記載あり、—:記載なし

エ 模型を用いた危険個所の再現実験

(ア) リサーキュレーション (循環流)

10回とも、人形が下流から上流に向かって水面を動いていき(図4-9)、堰堤の直下で移動を止め(図4-10)、その位置で若干水中に沈んだり、水面や水中で、頭部と足部を結んだ線を軸とし回転する模様が観察された。



図4-9 下流から上流へ動く途上の人形



図4-10 堰堤直下で移動を止めた人形

(イ) ホワイトウォーター

気泡の発生量が増加すると、人形全体が水中に沈み(図4-11)、気泡の発生が停止すると再度水面へ浮上することが観察された。



図4-11 気泡増加後に水中に沈んだ人形

¹ 国土交通省. 小型船舶用救命胴衣(膨脹式及び呼吸併用式以外のもの)の型式承認試験基準. (Webサイトアクセスは2018年10月1日).

5 考察

(1) 着用率

ア 活動により異なる着用率

ライフジャケットの着用率は水辺の活動の種類により異なっていた。ここでは、アンケート結果から水辺の活動を着用率（所有・借用の別は問わず、水辺の活動中にライフジャケットを着用した割合）により上位（70%以上）・中位（30%以上70%未満）・下位（30%未満）にグループ分けする。上位グループは「流れのある場所（海、川など）でのボート遊び（カヌー・カヤック・ラフティングなど）」（95.3%）、「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」（87.8%）、「ボート（船外機付きミニボート、手漕ぎボートなど）からの釣り」（83.1%）、「流れのあまりない場所（湖・水路など）でのボート遊び（カヌーなど）」（77.4%）、「シュノーケリング」（70.1%）であった。中位グループには「陸上からの釣り」（40.3%）が、下位グループには「川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）」（18.8%）、「海での水遊び、魚とり（釣りは除く）」（23.5%）が分類された。「その他」の活動は、活動が多様であることから、グループ分けしなかった。対象者数が少なくあくまで参考であるが、実地調査においても、着用率は「陸上からの釣り」が0%であったほかは、アンケート結果と同様にグループ分けできた。

ライフジャケット着用率上位のグループでは、観光ツアーなど、主催者が明らかな活動の割合が他の水辺の活動と比べ高かった。主催者が明らかな活動の割合は、着用率上位グループでは19.6%から61.8%であったのに対し、着用率中・下位グループでは4.6%から5.9%であった。特に、着用率が一位と二位の「流れのある場所（海、川など）でのボート遊び（カヌー・カヤック・ラフティングなど）」と「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」では、主催者が明らかな割合も活動別の一位と二位（それぞれ61.8%、45.3%）であった。「流れのある場所（海、川など）でのボート遊び（カヌー・カヤック・ラフティングなど）」と「エンジンのない乗合船での堀・水郷めぐり」では、有償で借用したライフジャケットを着用した割合も活動別の一位と二位（それぞれ45.3%、32.7%）であり、主催者が明らかな活動では、主催者の自主基準等によりライフジャケット着用を推進している可能性がある。

これに対し、着用率中・下位グループでは、主催者の区分は家族のみの活動である割合が高かった。着用率中・下位グループでの家族のみでの活動の割合は85.9%から90.3%までであり、家族のみでの活動の割合の多さは、活動別の一位から三位までを占めていた。着用率中・下位グループでの活動では、主催者が明らかな活動に参加することが少ないため、主催者にライフジャケット着用を促される機会は少なく、着用するかは家族に依存する可能性が高いことがわかった。

着用率中・下位グループでライフジャケットを着用しなかった理由は、危険性は少ないと保護者が判断していることが多い。アンケート調査でライフジャケットを着用しなかった理由を尋ねると、着用率下位グループでは「水深が浅く溺れる危険性が少ないから」と「保護者がすぐに救助できるから」が一位と二位、中位グループでは「水中に転落したり、水に流される危険性が少ないから」と「保護者がすぐに救助できるから」が一位と三位であった。いずれも、危険性は少なく、仮に溺れたとしても保護者がすぐに助けられると考えられていることがわかる。着用率中・

下位グループでは、ライフジャケットを着用すること自体の認知度も低かった。未着用の理由として、「着用を思いつかなかったから」を挙げた者は、着用率中位グループでは二番目に、下位グループでは三番目に多かった。

しかし、着用率中・下位グループの活動での危険性は高い。中学生以下の行為別の水難事故による死者・行方不明者数では、水遊び中の事故が46.4%と最も高い割合を占めていた¹。大人がいれば必ず救助できるわけでもなく、河川での水難事故の分析では、家族連れや、大人の引率がある場合にも事故は多く発生しており、救助活動中の二次災害も14.7%で発生していた²。実地調査においても、流れが急な河川本流に近い水たまりなどで子供を遊ばせており、子供が転倒したり保護者が目を離した間に子供が本流へ流されないか危惧する場面に何度か遭遇した。釣り中の海中転落事故も多く発生しており、2005年からの10年間に、釣り中に海中転落した5歳から14歳までの者は全国で72名にのぼり、うち6名が死者・行方不明者となっていた³。

子供自身は、ライフジャケット着用を嫌がっている可能性は低い。アンケート調査では、着用しない理由として「子供の動きの妨げになるから」、「子供が暑がるから」、「子供が恥ずかしがるから」はいずれも少数（それぞれ3.5%、3.1%、0.6%）であった。このことから、保護者等がライフジャケット着用を促せば子供が着用を嫌がることは少なく、心理的な側面からも、子供への積極的な着用促進は可能であると考えられた。

イ 対策

水辺の活動の主催者となる事業者等の団体では、引き続き確実なライフジャケット着用を推進すれば、高い着用率が維持されると考えられる。着用率上位グループの活動では、主催者が明らかである割合が高く、主催者による着用の働きかけがあるものと思われる。もし、水辺の活動を行う団体で、ライフジャケットの着用を行っていない団体がある場合は、着用を積極的に推進することが望まれる。

着用率中・下位グループの活動に対しては、幅広い世論の喚起が必要であると考えられる。着用率中・下位グループの活動では、危険性への認識が低く、ライフジャケットの着用自体を思いつかない場合も多い。ライフジャケット着用に対する社会的な認知向上に向け、メディア等で水辺の活動ではライフジャケットを着用することが当然のこととして描写されていたり、大人が率先してライフジャケットを着用し子供の模範となることは意義があると考えられる。実地調査では、着用率中・下位グループの水辺の活動では大人のライフジャケット着用率は0%であった（付録1）。

ライフジャケットのレンタルや無償貸出の拡大も、着用率向上に寄与すると考えられる。ライフジャケットのレンタルや無償貸出は一部の団体で行われているが、今後こうした活動が広がることにより、ライフジャケット着用が経済的にもより容易になり、着用率向上につながる可能性がある。

(2) サイズ違い、締付け不足、股下ベルト不使用

ライフジャケットのサイズ違い、締付け不足、股下ベルト不使用は危険である。ベルトの締付け不足再現実験では、ライフジャケットが本来の着用位置よりもずり上がり、首から後頭部付近に引っかかる状態となり、腰部と下肢が沈む様子が観察された。

アンケート調査では、ライフジャケットの不具合として、サイズが合わない、浮力のバランスが悪い、浮いて首が苦しい、脱げそうになったなど、サイズ違いや締付け不足が実際に起きていることを示す回答があった。実地調査でも、股下ベルトがあるにも関わらず、使用されていない事例が確認された。一方で、締付け不足や股下ベルト不使用による危険性の認知度は35%から40%程度であり、消費者には十分に認知されていないことがわかった。体格に合ったサイズの選択や、正しい着用法の普及が重要である。

(3) リサーキュレーション（循環流）、ホワイトウォーターに注意

模型を用いた実験では、ライフジャケット着用時であっても危険性が高い場所を再現した。川を横断して設置された堰堤を再現した水路模型では、人形が堰堤直下に吸い寄せられ、そこから移動しない様子が観察された。ホワイトウォーターの再現実験では、気泡が多く発生すると人形全体が水中に沈む様子が観察された。

ライフジャケットを安全に使用するためには、ライフジャケットを着用していても危険な場所を避けたり、使用する場所に適したライフジャケットを選択する必要がある。堰堤直下に発生するリサーキュレーション（循環流）では、捕捉されると脱出が困難になる場合があり⁴⁵、ライフジャケットを着用していても近づくことは危険である。またホワイトウォーターでは、空気の泡を多く含み浮力が低下するため、高浮力のライフジャケットの着用が求められる³。

(4) 表示された浮力を満たさない商品

浮力試験では、表示された浮力を満たさない商品が10検体中2検体あった。いずれの検体も表示浮力は5kgであったが、5kgの金属片を吊下げると水没した。また、試験は24時間浮いているかを試験するものであったが、表示された浮力を満たさない検体はいずれも試験開始1分以内に水没した。

表示された浮力を満たさないライフジャケットであっても、全く効果がないわけではない。浮力が小さい浮力体であっても、水難者の救助に役立つ。海上保安庁では、溺れた人を見たときは、まずは自分の安全を確保し、身の回りの浮くもの（浮き輪、ペットボトル、クーラーボックスなど）を溺れた人の近くに投げ入れたり、長いもの（棒、板切れ、ロープなど）を差し伸べるなど、道具を使うなどして助けるよう紹介している⁶。容量2リットルのペットボトルの浮力は2kg程度であり、今回調査したいずれの検体の表示浮力よりも小さいが、それでも一定の効果はあると考えられる。

しかし、表示された浮力を満たさないことによる危険性は否定はできない。表示された浮力を満たさない場合、水面に浮上する部分が減少するほか、波浪等による影響をより受ける可能性がある。また、表示された浮力を満たしているライフジャケットを普段着用している者が、満たしていないライフジャケットを着用した場合、水上で強い不安感を抱く恐れがある。

さらに、表示された浮力を満たさない場合、消費者は誤った情報に基づき商品を選択することになる。ライフジャケットを選ぶ際には、浮力が自分の体重の1割あることを目安としたり⁷、子供用の浮力は4kg以上とし、利用する水域にホワイトウォーターがある場合には高浮力のものを選択する⁴などの考えが関係団体から示されている。このため、ライフジャケットの表示浮力は、購入等の際の判断材料として重要な意味

を持つ。アンケート調査でも、ライフジャケット購入の際に重視する点として浮力を挙げた者は半数にのぼっていた。

ライフジャケットが表示された浮力を満たさない場合、不当景品類及び不当表示防止法に抵触する恐れがある。このため、浮力試験の結果を担当部署に情報提供した。

ライフジャケットの品質や、使用に適した場面を判断する目安の例として、国土交通省の型式承認マークである桜マーク、第三者機関である日本小型船舶検査機構による性能鑑定マークであるCSマーク、製造者の自己認証に基づき特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会が認定するRAC川育ライフジャケット認定マークがある。マークを付与するいずれの基準も、浮力試験や強度試験等を設定^{8,9,10}しており、マーク付きのライフジャケットは一定の機能が担保されていると考えられる。また、使用する場面については、桜マーク付きは船舶用であり、RAC川育ライフジャケット認定マーク付きは川での活動を想定し作られている。日本小型船舶検査機構のCSマーク付きのレジャー用ライフジャケットでは、使用目的や使用環境に応じて製造者により推奨される浮力が設定されている¹¹。

- 1 警察庁生活安全局地域課. 平成 29 年における水難の概況. 警察庁生活安全局地域課, 2018. に基づき算出 (Web サイトアクセスは 2018 年 9 月 18 日) .
- 2 公益財団法人河川財団. 水難事故防止 ライジャケ・オン. 河川財団 NEWS No.52, 2018. (Web サイトアクセスは 2019 年 1 月 8 日) .
- 3 海上保安庁警備救難部救難課, マリンレジャー安全推進室. 平成 26 年釣り中の事故発生状況. 海上保安庁. (Web サイトアクセスは 2019 年 1 月 8 日) .
- 4 公益財団法人河川財団. 水辺の安全ハンドブック 2018 年 WEB 版. 公益財団法人河川財団. (Web サイトアクセスは 2018 年 11 月 1 日) .
- 5 馬場仁志, 佐藤耕治. 河川水難事故のフェイルセーフ機能に関する研究. 開発土木研究所月報. No.537, 1998.
- 6 海上保安庁. ウォーターセーフティガイド 溺れた人を見たときの対処法. (Web サイトアクセスは 2019 年 2 月 28 日) .
- 7 WEAR IT! ライフジャケットを着よう! プロジェクト. ライフジャケット Q&A3-1 どう選ぶの?. 公益財団法人マリンスポーツ財団. (Web サイトアクセスは 2018 年 11 月 1 日) .
- 8 国土交通省. 小型船舶用救命胴衣 (膨脹式及び呼吸併用式以外のもの) の型式承認試験基準. (Web サイトアクセスは 2018 年 10 月 1 日) .
- 9 日本小型船舶検査機構. レジャーで使用する個人用の浮力補助具に関する業界の性能基準策定支援事業に関する調査研究報告書. 日本小型船舶検査機構, 2015. (Web サイトアクセスは 2018 年 4 月 17 日) .
- 10 特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会. RAC 川育ライフジャケット認定規則. (Web サイトアクセスは 2019 年 1 月 30 日)
- 11 例えば、一般社団法人釣用品工業会では、ライフジャケットのランクにより、使用環境ガイドラインを定めている。一般社団法人釣用品工業会. JCI 性能鑑定適合品レジャー用ライフジャケット (固型式) 使用環境ガイドライン 国土交通省型式承認品・JCI 性能鑑定適合品レジャー用ライフジャケット (固型式) 推奨表. (Web サイトアクセスは 2019 年 3 月 12 日) .

6 消費者へのアドバイス

(1) 水辺の活動をするときには、ライフジャケットを積極的に着用しましょう

子供の水難による死亡事故は水遊び中に多く発生しています。しかし、海や川での水遊びや、陸上から釣りをする場合に、ライフジャケットの着用率が低くなっています。生存率を高めるため、ライフジャケットを着用しましょう。付添いをする大人も着用しましょう。

(2) 品質が確保されたライフジャケットを選びましょう

試験では、表示された浮力を満たさない製品がありました。表示された浮力を満たさない場合、水面に浮上する部分が減少するなどのおそれがありますので、品質が確保されたライフジャケットを選びましょう。桜マーク（国土交通省の型式承認（船舶用））や第三者機関による性能鑑定マーク、団体の認定マークがついていることも、品質や使用場面を判断する参考になります（東京くらしWEBにリンクがあります）。

(3) 体格にあったライフジャケットを選択し、ベルトをしっかり締めましょう

ライフジャケットが子供の体格に合っていなかったり、ライフジャケットのベルトの締付けが不十分な場合、ライフジャケットが脱落したり、浮かんだ際のバランスが悪くなる場合があります。

(4) 危険な場所には子供を近づけないようにしましょう

ライフジャケットを使用していても危険な場所があります。例えば、堰堤の下ではリサーキュレーション（循環流。川の堰堤の下などに発生する上流側へ反転する流れ）が発生し、脱出が困難になる場合があります。

7 調査結果の活用

(1) 要望

ライフジャケット自主基準関連団体等に、安全なライフジャケットの普及促進を要望する。

- ・日本小型船舶検査機構
- ・公益財団法人マリンスポーツ財団
- ・一般社団法人日本釣用品工業会
- ・特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会
- ・多摩川川下り事業者組合

(2) 情報提供

本結果について情報提供を行う。

- ・消費者庁消費者安全課
- ・経済産業省製造産業局生活製品課
- ・経済産業省商務情報政策局産業保安グループ製品安全課
- ・国土交通省海事局安全政策課
- ・海上保安庁交通部安全対策課
- ・公益財団法人河川財団 子どもの水辺サポートセンター
- ・公益財団法人日本釣振興会
- ・公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

- ・公益社団法人日本小児科学会
- ・公益社団法人日本通信販売協会
- ・一般社団法人日本セーフティカヌーイング協会
- ・一般社団法人日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会
- ・一般社団法人日本マリン事業協会
- ・一般社団法人ラフティング協会
- ・社団法人日本ラフティング協会
- ・特定非営利活動法人日本ライフセービング協会
- ・日本カヌー工業会
- ・日本チェーンストア協会
- ・東京消防庁

本調査の一部は、東京消防庁消防技術安全所の協力を得た。

付録1 ライフジャケット着用状況実地調査（小学生以外）結果

観察数。（ ）内及びライフジャケット着用率は%。—は該当なしを示す。

	未就学児童（推定6歳未満）							中学生（推定13歳から15歳まで）							大人（推定16歳以上）		
	計	ライフジャケット着用あり			ライフジャケット着用なし	ライフジャケット着用率		計	ライフジャケット着用あり			ライフジャケット着用率		計	ライフジャケット着用あり	ライフジャケット着用なし	ライフジャケット着用率
		股下ベルト着用あり	股下ベルトあるが着用なし	股下ベルトの有無・着用状況不明					股下ベルト着用あり	股下ベルトあるが着用なし	股下ベルトの有無・着用状況不明						
全体	120	15(12.5)	4(3.3)	1(0.8)	100(83.3)	16.7	17	5(29.4)	1(5.9)	0(0.0)	11(64.7)	35.3	584	373(63.9)	211(36.1)	63.9	
陸上からの釣り 計	1	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(100.0)	0.0	3	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(100.0)	0.0	77	0(0.0)	77(100.0)	0.0	
23区西部の河口	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	2	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)	0.0	26	0(0.0)	26(100.0)	0.0	
西多摩地域の川①	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	5	0(0.0)	5(100.0)	0.0	
23区西部の海浜公園	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	3	0(0.0)	3(100.0)	0.0	
23区西部の川	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	6	0(0.0)	6(100.0)	0.0	
西多摩地域の川③（8月）	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	4	0(0.0)	4(100.0)	0.0	
西多摩地域の川③（9月）	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	4	0(0.0)	4(100.0)	0.0	
西多摩地域の川④（8月）	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	7	0(0.0)	7(100.0)	0.0	
西多摩地域の川④（9月）	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	1	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(100.0)	0.0	7	0(0.0)	7(100.0)	0.0	
23区東部の川②	1	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(100.0)	0.0	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	15	0(0.0)	15(100.0)	0.0	
流れがあまりない場所でのボート遊び 計	6	6(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	100.0	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	107	101(94.4)	6(5.6)	94.4	
23区東部の川①	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	57	51(89.5)	6(10.5)	89.4	
西多摩地域の湖沼	6	6(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	100.0	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	50	50(100.0)	0(0.0)	100.0	
流れのある場所でのボート遊び 計	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	272	272(100.0)	0(0.0)	100.0	
西多摩地域の川①	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	272	272(100.0)	0(0.0)	100.0	
海での水遊び、魚とり（釣りは除く） 計	32	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	32(100.0)	0.0	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	18	0(0.0)	18(100.0)	0.0	
23区西部の海浜公園	32	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	32(100.0)	0.0	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	18	0(0.0)	18(100.0)	0.0	
川・沼・湖・用水路での水遊び、魚とり（釣りは除く）計	81	9(11.1)	4(4.9)	1(1.2)	67(82.7)	17.3	14	5(35.7)	1(7.1)	0(0.0)	8(57.1)	42.9	110	0(0.0)	110(100.0)	0.0	
西多摩地域の川①	6	0(0.0)	2(33.3)	1(16.7)	3(50.0)	50.0	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	9	0(0.0)	9(100.0)	0.0	
西多摩地域の川②	15	3(20.0)	1(6.7)	0(0.0)	11(73.3)	26.7	14	5(35.7)	1(7.1)	0(0.0)	8(57.1)	42.9	31	0(0.0)	31(100.0)	0.0	
23区西部の川	8	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	8(100.0)	0.0	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	14	0(0.0)	14(100.0)	0.0	
西多摩地域の川③（8月）	11	3(27.3)	1(9.1)	0(0.0)	7(63.6)	36.4	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	20	0(0.0)	20(100.0)	0.0	
西多摩地域の川③（9月）	28	1(3.6)	0(0.0)	0(0.0)	27(96.4)	3.6	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	20	0(0.0)	20(100.0)	0.0	
西多摩地域の川④（8月）	7	2(28.6)	0(0.0)	0(0.0)	5(71.4)	28.6	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	7	0(0.0)	7(100.0)	0.0	
西多摩地域の川④（9月）	6	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	6(100.0)	0.0	0	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	—	9	0(0.0)	9(100.0)	0.0	

ライフジャケット着用率は{(ライフジャケット着用あり/観察総数)×100}とする。

年齢区分と股下ベルト着用の有無は観察者の判断によるため、実際と異なる可能性がある。

小数点第二位を四捨五入したため、%の合計が100にならない場合がある。

付録2 表示調査結果詳細 (その1)

検体No. 表示箇所	法定の船舶用救命胴衣ではないこと	体格に合ったサイズを選ぶこと	ベルト着用上の注意事項
1			
ホームページ	—	—	—
本体	—	—	—
付属紙ラベル	フローティングベストは浮く機能を備えています。ただし、法定備品(日本小型船舶検査機構検定品)ではありません。	—	必ず股ベルトを装着し、ファスナーあるいはセフティベルトを締めて使用してください。装着が不備の場合はフローティングベストがずれ、体のバランスを崩し危険です。
2			
ホームページ	本製品は国土交通省の認定を受けた救命胴衣ではありませんので、小型船舶の認定製品としては認められません。使用目的にあった使い方をしてください。	—	両サイドの紐または、ベルトを調節して体にフィットさせてください。 着用時には必ずファスナーとセフティーベルトをしっかり止めて締めてください。 事故の原因になりますので十分に注意ください。
本体	フローティングベストは浮く機能を備えています。法定備品(日本小型船舶検査機構検定品)ではありません。用途に合わせてご使用下さい。	お子様の身体にあったサイズを着用してください。	股ベルトは必ず装着しファスナーあるいはセフティーベルトは必ず締めて使用してください。 装着が不備な場合やベルトにたるみがあると転落時に脱げたり身体のバランスを崩し水面上に顔を上げる事ができなくなり危険です。
付属紙ラベル	本製品は国土交通省の認定を受けた救命胴衣ではありませんので、小型船舶の認定製品としては認められません。使用目的に合った使い方をして下さい。	—	両サイドの紐、またはベルトを調整して身体にフィットさせて下さい。着用時には必ずファスナーとセフティベルトをしっかり止めて締めて下さい。事故の原因になりますので十分にご注意ください。
3			
ホームページ	—	自分の体の大きさに適したライフジャケットを選びます。	ライフジャケットは、体から抜けてしまわない様に装着しなければなりません。 着用後、胴回りを締めるベルトで、しっかりとウエストを締めます。 ベルトが複数ある場合は、胴回りの一番下のベルトから締めていきます。 このとき、ウエスト部分にあるベルトは、特に強く締めます。 そしてウエスト部分のベルトが、肋骨から上に抜けないようにします。 装着が完了したら、複数の人がお互いにチェックし合うことが大切です。 その際互いに、背後から、肩の部分をつかみ、ライフジャケットを上引っ張り上げても抜けないことを確認しましょう。 この後、股下を通すベルトをバックルで装着します。
本体	—	—	—
付属紙ラベル	付属紙ラベルなし	付属紙ラベルなし	付属紙ラベルなし

—: 記載なし
記載は原文のまま

付録2 表示調査結果詳細（その2）

検体No. 表示箇所	法定の船舶用救命胴衣ではないこと	体格に合ったサイズを選ぶこと	ベルト着用上の注意事項
4			
ホームページ	本製品は国土交通省の認定を受けた救命胴衣ではありませんので、小型船舶の認定製品としては認められません。使用目的にあった使い方をしてください。	—	両サイドの紐または、ベルトを調節して体にフィットさせてください。 着用時には必ずファスナーとセーフティーベルトをしっかりと止めて締めてください。 事故の原因になりますので十分に注意ください。
本体	フローティングベストは浮く機能を備えていますが、法定備品（日本小型船舶検査機構検定品）ではありません。用途に合わせてご使用下さい。	お子様の身体にあったサイズを着用してください。	股ベルトは必ず装着しファスナーあるいはセーフティーベルトは必ず締めて使用してください。 装着が不備な場合やベルトにたるみがあると転落時に脱げたり身体のバランスを崩し水面上に顔を上げる事ができなくなり危険です。
付属紙ラベル	本製品は国土交通省の認定を受けた救命胴衣ではありませんので、小型船舶の認定製品としては認められません。使用目的にあった使い方をしてください。	—	両サイドの紐または、ベルトを調節して身体にフィットさせてください。着用時には必ずファスナーとセーフティーベルトをしっかりと止めて締めてください。事故の原因になりますので十分にご注意ください。
5			
ホームページ	※救命胴衣ではありません。	—	フィッティングは、ショルダー/ボディウエストベルトをしっかりと締め、体にベストをぴったりフィットさせてご利用ください。
本体	—	—	—
付属紙ラベル	※救命胴衣ではありません。	—	フィッティングは、ショルダー/ボディウエストベルトをしっかりと締め、体にベストをぴったりフィットさせてご利用ください。
6			
ホームページ	こちらの商品は法定備品としてはご利用いただけません。	—	—
本体	この商品は浮力機能を備えています。ただし、法定備品（日本小型船舶検査機構検定品）ではありません。	—	股ベルトは必ず装着し、ファスナーあるいはセーフティーベルトを締めて使用して下さい。 不完全に装着がされている場合は体のバランスを崩し、正常な浮力が得られなくなり非常に危険です。
付属紙ラベル	—	—	お子様に着用させる際はファスナー、股ベルトなどを確実にしっかりと装着して下さい。正しく着用できていない場合、転落時に脱げてしまったり、正しい姿勢で浮くことができなくなります。
7			
ホームページ	※この商品は国交省認定品と同等浮力となりますが、船舶検査には使用できません。	—	—
本体	—	—	—
付属紙ラベル	ただし、運輸省の形式承認を受けた救命胴衣ではありませんので、小型船舶の備品としては認められません。	—	〈確実に正しく着ること〉 着用する際は、前ファスナーを必ずしめ、セーフティーベルト（股ベルト）や、バックルなどの止め具を必ず装着してください。正しく装着していかつたり、ベルトにたるみがあると、転落時に脱げてしまったり、水面上に顔を確保できなくなり危険です。

—: 記載なし
記載は原文のまま

付録2 表示調査結果詳細 (その3)

検体No. 表示箇所	法定の船舶用救命胴衣ではないこと	体格に合ったサイズを選ぶこと	ベルト着用上の注意事項
8			
ホームページ	この商品は国土交通省の承認品ではありませんが、十分な浮力を備え、また遠目にも目立つカラーを選定致しました。	必ず適身サイズをお守り頂き、股下ベルトを含め正しくご装着下さい。	必ず適身サイズをお守り頂き、股下ベルトを含め正しくご装着下さい。
本体	フローティングベストは浮く機能を備えていますが、法定備品(日本小型船舶検査機構検定品)ではありません。用途に合わせてご使用下さい。	お子様の体にあったサイズを着用して下さい。	股ベルトは必ず装着しファスナーあるいはセーフティーベルトは必ず締めて使用して下さい。装着が不備な場合やベルトにたるみがあると転落時に脱げたり体のバランスを崩し水面上に顔を上げる事ができなくなり危険です。
付属紙ラベル	本製品は国土交通省の認定を受けた救命胴衣ではありませんので、小型船舶の認定製品としては認められません。使用目的に合った使い方をして下さい。	—	両サイドのヒモ、ベルトを調整して体にフィットさせてください。着用時には必ずファスナーとセーフティーベルトをしっかり締めて下さい。事故の原因となりますので十分にご注意下さい。
9			
ホームページ	救命胴衣としての使用はできません こちらのフローティングベストは、十分な浮力を持たせたものですが、国土交通省の検定品ではありませんので、救命胴衣としての使用はできません。	正しく締めても肩の部分に余裕があったり、身体に合っていないものは着水時に脱げてしまう可能性があります。	必ず股ベルトを装着し、ファスナーやベルトなどの止め具を締めてご使用して下さい。
本体	このフローティングベストは国土交通省の検定品ではありません。救命具としての使用は出来ません。	正しく調節しても肩の部分に余裕があったり、体に合っていないサイズの物は着水時にはずれてしまう場合があります。必ずサイズは体に合ったものを選んでください。	胴紐、股紐をバックルで留めフローティングベストを着用して下さい。胴紐、股紐は必ず正しく調節して下さい。
付属紙ラベル	このフローティングベストは国土交通省の検定品ではありません。救命具としての使用は出来ません。	正しく調節しても肩の部分に余裕があったり、体に合っていないサイズの物は着水時にはずれてしまう場合があります。必ずサイズは体に合ったものを選んでください。	胴紐、股紐をバックルで留めフローティングベストを着用して下さい。胴紐、股紐は必ず正しく調節して下さい。
10			
ホームページ	※救命胴衣ではありません。	—	—
本体	国土交通省認定の救命胴衣・舟艇用フローティングジャケットではありません。	必ず実際に着用して、サイズの合った物を購入して下さい。	着用する際は、体へのフィットを確認してから使用して下さい。ファスナーを閉める。(バックルを止める。)その後、必ずショルダーベルト、ボディーベルトの先端をしっかり引いて長さを調節して下さい。股掛けまたはウエストベルトのバックルを締めてからベルトの長さを調節して下さい。
付属紙ラベル	※救命胴衣ではありません。	—	—

—: 記載なし
記載は原文のまま